

(1) 設置の趣旨及び必要性

1. 本計画の概要

本計画は平成 29 年 4 月に、昭和音楽大学（以下本学という）音楽学部音楽芸術表現学科を設置するものである。本学科は音楽の演奏・創作に関わる人材の養成と研究を行う。

本学は現在、音楽学部作曲学科、器楽学科、声楽学科、音楽芸術運営学科の 4 学科を設置している。これらのうち作曲学科、器楽学科、声楽学科は、音楽の創作・演奏に関わる人材の養成ならびに研究を目的としている。これら 3 学科を、目的および教授研究の内容において発展的に継承した学科として、音楽芸術表現学科を設置する。なお、作曲学科、器楽学科、声楽学科は、平成 29 年 4 月に学生募集を停止する。

音楽芸術表現学科には、教授研究の専門領域および養成する人材像に応じて 16 のコースを設置する。これにより、学生のニーズに応じた、きめ細やかな教育活動を行う。

2. 建学の精神、学則、法令との関係

本学の建学の精神は、「礼・節・技の人間教育」である。これは本学の母体になった東京声専音楽学校の、礼節を重んじ豊かな人間性と教養を身につけた個性ある音楽家を養成するという教育方針を継承して、昭和 59 年の本学開学にあたり定めたものである。

本学は「学校教育法」第 83 条ならびに「大学設置基準」第 2 条の規定にのっとり、「昭和音楽大学学則」において、本学の目的を「広く知識を授けるとともに、音楽を中心としたさまざまな領域に関する技能、理論及び応用を深く教授研究し、もって広い視野と高い識見を持つ人材育成を行い、文化の向上と社会の福祉に寄与することを目的とする」と定めている。

また、本学は、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定めている¹。

本計画により設置される音楽芸術表現学科は、本学の建学の精神、学則、ならびに 3 つのポリシーにもとづいて教授研究活動を行う。

3. 中央教育審議会の審議・答申を受けて

本計画は中央教育審議会による大学教育に関する審議・答申（平成 17 年 1 月 28 日「我が国の高等教育の将来像」、平成 20 年 12 月 24 日「学士課程教育の構築に向けて」、平成 24 年 8 月 28 日「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」など）を受けて計画された。

これらの答申では、大学が、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力（いわゆる学士力）を持った人材を養成する必要がある、そのために大学教育の質的な転換、すな

¹ 資料 1-1：昭和音楽大学アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

わち教授する側が主体の教育から、学生の能動的な学修へ転換することの必要性が一貫して述べられている。

本学は、こうした大学に対する社会的な要請をふまえて、教授研究制度改革を継続的に検討し、その結果、平成 29 年 4 月に音楽芸術表現学科を設置することにした。本計画は特に、専門性の追究と共に、問題発見能力、想像力・構想力、社会性・コミュニケーション能力、基礎的な教養・知識・経験など、学士力を備えた学生を養成するための教授研究制度改革のひとつである。

4. 本学の教授研究制度改革における意義

本計画により本学の音楽学部には、音楽芸術表現（音楽の創作・演奏）に関する教授研究を行う音楽芸術表現学科（新設）と、音楽芸術表現の関連領域の教授研究を行う音楽芸術運営学科（既設）の 2 学科が設置されることとなる。既に本学の大学院音楽研究科の修士課程には、音楽芸術表現専攻と音楽芸術運営専攻の 2 専攻があり、博士後期課程音楽芸術専攻には、音楽芸術表現領域と音楽芸術運営領域の 2 つの研究領域が設定されている。したがって、本計画による改革が完成した時点で、本学においては、大学（学部）から大学院修士課程を経て博士後期課程まで、音楽芸術表現と音楽芸術運営の 2 つの分野（学科・専攻・領域）における一貫した教授研究が可能になる。

5. 校地の位置、地域との関わり

本学所在地は、神奈川県川崎市の北部にある麻生区である。最寄り駅は小田急電鉄新百合ヶ丘駅である。同駅は東京都心（新宿）から約 20 分、横浜からは約 50 分、小田原から約 70 分の位置にあり（いずれも鉄道による）、都心および神奈川県内各地からのアクセスがしやすい。

周辺には芸術文化関係者が多く居住し、音楽・芸術活動が盛んである。また音楽専攻を含む学科を有する高等学校や、音楽関連の部活動が盛んな高等学校が、多数、所在している。

この地域では、芸術文化に造詣の深い地域居住者や芸術文化施設などの地域資源を活かして、30 年にわたり芸術文化が息づくまちづくりが進められてきた。近年ではアルテリッカしんゆり（川崎・しんゆり芸術祭）、麻生音楽祭、KAWASAKI しんゆり映画祭といった音楽・芸術のフェスティバルが開催されるようになった。これらの実施にあたり本学は企画・運営側として主体的に関わっており、「しんゆり・芸術のまち」として認知されるに至る原動力となっている。

また、川崎市は平成 16 年のミューザ川崎シンフォニーホールの開館を契機として、「音楽のまち・かわさき」をスローガンに、音楽によるまちづくりを展開している。これは、音楽を中心とした芸術や市民文化の創造を通じ、活力ある地域社会の実現や新たな産業機

会の創出によって新しい都市イメージを創造することを目指し、市民・事業者等・行政が協働するものである。本学はこれにおいても企画・運営に主体的に関わるのみならず、学生オーケストラがミュージア川崎シンフォニーホール主催のフェスティバルに出演するなど、大きな役割を果たしている。

本学はこのように、周辺地域の音楽芸術によるまちづくりの一翼を担っている。本学が音楽・芸術を深く理解した人材を養成して社会に送り出すことや、本学の在学生・卒業生が地域と連携した音楽・芸術活動を行うことは、地域の期待に応えるものである。またこのような立地条件であることから、音楽を学ぶ強い意欲を持つ学生が、継続的に集まりやすいと言える。

6. 音楽芸術表現学科の養成する人材像と研究対象

今回、新たに設置する音楽芸術表現学科は、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創作できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を養成するために専門教育を行う。また、本学科が研究対象とする学問分野は音楽である。

(2) 学部・学科等の特色

1. 大学の特色

本学は学則において、「広く知識を授けるとともに、音楽を中心としたさまざまな領域に関する技能、理論及び応用を深く教授研究し、もって広い視野と高い識見を持つ人材育成を行い、文化の向上と社会の福祉に寄与することを目的とする」と定めている。本学はこれをもとに教授研究を行う。それにあたっては、中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像（答申）」（平成 17 年）において必要とされた、大学の個性・特色の明確化に引き続き取り組む。

同答申が掲げる「大学の機能」の類型によれば、まず、本学は主に音楽芸術の教授研究の機能を有すると言える。それと同時に、音楽芸術の世界的研究・教育拠点（世界的なネットワーク、世界的演奏家の養成）、地域の生涯学習機会の拠点（コンサート、公開講座の開催等）でもあり、音楽芸術による地域社会に対する貢献（地域の催事への参加、小中学校・高等学校等における音楽指導の実施等）の機能も有している。

2. 音楽芸術表現学科の特色

音楽芸術表現学科は、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創作できる人材、または舞台等で実践的に活躍できる人材を養成する。本学科では、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力（いわゆる学士力）を持った人材を養成するために、基礎的な教養・知識などを修得させ、問題発見能力、想像力・構想力、社会性・コミュニケー

ション能力など汎用力を獲得させる。それと同時に、音楽およびその関連領域の基本的な知識・素養ならびに音楽創作・演奏の技法を専門的に教授する。

音楽および音楽関連の分野で社会に貢献する社会人に不可欠な基礎的・汎用的な能力を固め、その上に高度な専門性を築くという、汎用性と専門性の2つの方向性をもつバランスのよい教授活動を行うことは、音楽芸術表現学科の第一の特色である。

本学科には16のコースを設置して、学生のニーズに合わせたきめ細やかな教授活動を行う。これにより学生は、音楽家として活動していくにあたり極めて重要な、より高度な専門性を修得することができる。これは本学科の第二の特色である。

また、本学科では、クラシック音楽の創作・演奏だけでなく、ジャズやポピュラー音楽の創作・演奏までを一体的に教授研究の対象とする。多様な音楽スタイルを一つの学科において統合的に教授研究することで、音楽を幅広く捉えることができ、領域（音楽ジャンル）を横断した音楽芸術の教授研究が可能になる。これが本学科の第三の特色である。

3. 専門分野の拡大、音楽ジャンルについて

近年は情報技術が著しく進展し、時代や時代を超えたより多彩な音楽が情報として流通し、それらをもとに新しい音楽が創造されるようになった。音楽のスタイルはもはやジャンルで括ることが困難になった。このことはいわゆるポピュラー音楽に限ったことではなく、クラシック音楽もその例外ではない。例えば従来のクラシック音楽の領域においても、ある時代や地域に特有な音楽様式や楽器などを、現代において再現するなど、時代や地域を超えた音楽活動が試みられている。

こうした状況下で音楽家として活動する、あるいは音楽に関わる仕事をするためには、音楽全般の動向を把握・理解して、それを自分の活動に採り入れるための、基礎的な知識と技能が求められる。より具体的に言えば、例えばある楽器の演奏家は、その楽器による演奏解釈を専門的に深く追究すると同時に、他の楽器とその奏法や多様な作品様式に通暁する必要がある。

以上の認識をもとに、本学は「音楽を中心とした様々な領域に関する技能、理論及び応用を深く教授研究」するにあたって、従来のジャンルや様式にとらわれずに、幅広い視野・知識とそれにもとづく自由な発想を持つように配慮する。本計画は、近年のこうした音楽のありかたの変化に対応した教授研究を可能にするものである。

4. 音楽芸術表現学科各コースの特色と養成する人材像

音楽芸術表現学科を構成する各コースの教育活動の特色と養成する人材像は、次のとおりである。

作曲・音楽デザインコースにおいては、クラシック音楽に代表されるようなアカデミックかつ古典的な音楽創作（作曲）と、コンピューターをはじめとするデジタル技術を駆使

した現代的な音楽創作（音楽デザイン）の両面を修得させ、芸術音楽の作曲家、デジタルテクノロジーを用いた音楽作品の創作者、サウンドアート、サウンドデザインの分野の創作者を養成する。作曲と音楽デザインは音楽創作の手法の相違である。音楽作品の創作またはその関連事業を生業としていくためには、できるかぎり多様な手法に習熟しておくことが望ましい。そうした観点から、既設学科においては異なるコースに分かれていた両者を、1つのコースで学べるようにする。

サウンドプロデュースコースにおいては、主にいわゆる商業音楽のプロデュースと創作の手法を実践的に修得させ、ポピュラー音楽の分野で作曲、アレンジ、演奏、レコーディング、プロデュース等を行う専門家や、映像音楽、ゲーム音楽などの制作に携わる人材、また、PA、録音制作のエンジニアを育てる。従来の音楽関連業界では、作曲、演奏、録音などの諸段階が分業されていたが、今日では、これらを単独ないし少人数でこなして音源を完成させるよう求められることが多くなった。本コースはこうした音楽業界のニーズの変化に対応して、単にプロデュースするだけではなく、様々なジャンルの音楽に精通し、演奏・音源制作を自ら一定以上の水準でできるようにする。

指揮コースにおいては、音楽作品に対する深い洞察力を養い、主にオペラ、オーケストラ、吹奏楽、バレエの領域において、芸術性豊かな表現をすることができる指揮者および指導者を育てる。

ピアノミュージッククリエイターコースにおいては、ピアノ演奏を軸としつつ、メディア・テクノロジーを駆使した音楽・映像作品の創作技法を修得させ、音楽・映像作品の創作者やピアノ奏者、指導者を養成する。

ピアノ指導者コースにおいては、ピアノの演奏表現と同時にピアノの指導法を修得させ、音楽教室、個人レッスン等のピアノの指導者やピアノ奏者を育てる。

ピアノ演奏家Ⅰコースにおいてはピアノ音楽の芸術性の高い表現技法を修得させ、ピアノ奏者、室内楽奏者、伴奏者、コレペティトゥア及び指導者を養成する。

ピアノ演奏家Ⅱコースにおいてはピアノ音楽の芸術性のきわめて高い表現技法を修得・追究させ、ピアノ奏者、室内楽奏者、伴奏者、コレペティトゥア及び指導者を養成する。

オルガンコースにおいては、オルガン演奏の技法、基礎的な音楽の素養、音楽全体に関する幅広い知識を修得させ、オルガン奏者及び指導者を養成する。

電子オルガンコースにおいては、電子オルガン演奏の技法とその周辺領域の専門的な知識・素養、音楽全体に関する幅広い知識を修得させ、電子オルガンのソロ、アンサンブルの奏者及び指導者を育てる。

弦・管・打楽器コースは、学生それぞれが専門とする楽器の演奏技法と、その周辺領域の専門的な知識・素養、さらに音楽全体に関する幅広い知識を修得させ、弦・管・打楽器の奏者及び指導者を養成する。

ウインドシンフォニーコースは、学生それぞれが専門とする楽器の演奏技法と、その周

辺領域の専門的な知識・素養、特に吹奏楽の指導法、指揮法、作曲・編曲法を修得させ、弦・管・打楽器の奏者のほか、吹奏楽の指導者（バンドディレクター）、指揮者、作曲家、編曲者を養成する。

弦・管・打楽器演奏家Ⅰコースは、学生それぞれが専門とする楽器の演奏技法と、その周辺領域の専門的な知識・素養、さらに音楽全体に関する幅広い知識を修得させ、弦・管・打楽器の奏者、特に協奏曲等の独奏者を育てる。

弦・管・打楽器演奏家Ⅱコースは、学生それぞれが専門とする楽器の演奏技法と、その周辺領域の専門的な知識・素養、さらに音楽全体に関する幅広い知識を修得させ、弦・管・打楽器の奏者、特に室内楽奏者、オーケストラ奏者、協奏曲等の独奏者を育てる。

ジャズコースにおいては、ジャズの表現技能や、ジャズおよびポピュラー音楽、さらに音楽全般の知識を総合的に修得させ、ジャズやポピュラー音楽のミュージシャン及び指導者を育てる。

ポピュラー音楽コースにおいては、ポピュラー音楽の表現技能や、ポピュラー音楽および音楽全般に関する幅広い知識を修得させ、ポピュラー音楽のミュージシャン、シンガーソングライター及び指導者を育てる。

声楽コースにおいては、ベルカント唱法に根ざした発声法のきめ細かい指導により歌手としての基礎能力を修得させ、オペラ教育と海外研修を通じて西欧文化を吸収し、協調性と国際性を養い、個性と創造性が豊かな声楽家及び指導者を育てる。

このほか、教養科目、外国語科目等を通じて、学生の社会性、コミュニケーション能力や基礎的な教養・知識などを培う。

また、音楽関連企業・団体や一般企業で活躍する人材、または公務員や教員として活躍する人材の養成も行う。

なお、本学科は学生の希望に応じて、一定の試験によりコースの変更を認める。

（３）学科の名称及び学位の名称

１．学科の名称

本計画により設置する学科の名称は音楽芸術表現学科である。これは音楽芸術の表現（創作・演奏）に関する教授研究の場として設置するもので、名称はそれを表したものである。

２．学位に付記する専攻分野の名称

学位に付記する専攻分野の名称は「音楽」である。これは学科が教授研究する内容に合致する。また、基礎となる既設の学科、すなわち、作曲学科、器楽学科、声楽学科が授与する学位に付記する専攻分野の名称と同一である。

3. 学科および学位の英訳名称

学科の英訳名称は Department of Musical Arts である。欧米では Department of Performing Arts とされることが多いが、この場合の Performing Arts は舞台芸術全般を含み、音楽芸術より語義が広い。したがって本計画で新設する学科の名称としては適当ではない。欧米においても学科やカリキュラムの名称に Musical Arts を用いる教育機関があり(米国オハイオ州の Bowling Green State University、英国マンチェスターの University of Salford など)、英訳として適切である。

学位の英訳名称は Bachelor of Music である。

(4) 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 「学士力」の涵養を目指して

音楽芸術表現学科の教育課程は、学生が「認知的能力」、「倫理的、社会的能力」、「創造力と構想力」、「教養、知識、経験」など、「成熟社会において求められる能力」を修得し、これをベースとして音楽芸術の高度な専門性を培うことをめざして編成されている。

授業科目は「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」に区分する。また、人材養成目的およびディプロマポリシーに応じて、これらの授業科目をコース毎に「必修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」に振り分ける。また各授業科目の目的・内容・難易度にもとづき、コースごとに履修すべき年次を定める。さらに一部の授業科目には、基礎的な内容を修得したうえで応用・実践的な内容を修得するよう、履修すべき順序を定める。

また、一部においては難易度別に授業科目を編成し、習熟度に応じた履修を可能にすると同時に、同じ難易度の授業科目の一部において、科目の目的と扱う内容に即して授業科目を分ける。これにより、学生はそれぞれの関心、学修計画、習熟度に即して、履修科目を選択することができ、学生の主体的な学修を促す。

2. 教養科目

教養科目においては基礎的な知識と教養(含む情報リテラシー)を広く学ぶ。「哲学」、「文学」、「日本国憲法」、「教育心理学」、「生涯学習概論Ⅰ」、「ボランティア論」、「音響学」、「博物館概論」、「図書館概論」、「体育理論」、「体育実技」、「キャリアデザイン」、「西洋文化史Ⅰ」、「同Ⅱ」、「日本文化史Ⅰ」、「同Ⅱ」、「美術史Ⅰ」、「同Ⅱ」といった科目に加えて、以下の特色ある科目を開講する。

「基礎ゼミ」では初年次の導入教育として、「大学における学び」のためのスタートアップを行う。具体的には(1) 学びの環境を知る、(2) 大学で学ぶこととその意味を考える、(3) 主体的に学ぶために必要な基本的なスキルを修得する、(4) キャリアデザインを描く、(5) コミュニケーション・スキルを学ぶ。

「芸術特別研究Ⅰ」では、優れた音楽・芸術表現を鑑賞し、その内容をレポート作成及びプレゼンテーションすることで表現力を養う。また音楽・芸術についての理解を深め、音楽表現を豊かにする。「同Ⅱ」ではより多視点的な鑑賞を行い、音楽・芸術の多面性を理解する。

「音楽活動研究①」では、社会における音楽の役割、対象や目的に沿った演奏会の企画・運営について学び、実際の演奏活動から音楽のもつ力を体感する。「同②」ではより実践的に、実際の演奏活動の映像を検証し、ディスカッションを行い、音楽とは何か、考察を深める。「同③」では、それまでに修得したスキルと知識を活かし、演奏会やアウトリーチ活動（演奏・楽器指導等）の企画・運営を実践的に学ぶ。「同④」では、より主体的に演奏活動、楽器指導、演奏会の企画・運営を行うことで、「礼・節・技」の備わった音楽人として成長する。

「演奏とからだⅠ」では、演奏することに深くかかわる身体について、仕組みと各部位の働き、そして呼吸についての基礎知識を学修する。「同Ⅱ」では、鍵盤楽器、声楽、管楽器、ジャズ・ポピュラー音楽の各専門領域において実践的に学修する。あわせてアレクサンダー・テクニークの考え方も理解する。

このほか学術的な内容の基礎を修得する「経済学」、「心理学」に加えて、「生活と経済」、「心の健康」を開講する。これらは、学生が卒業後に社会人として活動していくにあたり、身につけておくことが望ましい教養的知識を学修する授業科目である。これらにより学生は、学術と生活の両面で活用できる知識を修得することができる。

情報リテラシーを学ぶ授業科目として「情報機器演習（基礎）」、「同（応用）Ⅰ」、「同（応用）Ⅱ」を開講する。授業科目を習熟度別に開講し（「基礎」と「応用」）、また「応用」においては扱う内容・目的に応じて異なる科目を開講することにより、受講者のスキルと学修計画に応じた履修が可能になる。

3. 外国語科目

「外国語科目」ではコミュニケーション・スキルの修得とともに、専門性の追究に必要な語学力を修得する。

開講するのは英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語である。各言語において、習熟度別に「基礎」、「初級」、「中級」、「上級」の授業科目を設ける。

英語においては、習熟度の各段階において、授業内容・対象・目的に応じて細分化した授業科目を開講する。それらは一般的な reading、listening、writing、speaking に加えて、音楽に関する内容の科目、舞台芸術に関する内容の科目、映画や文学作品に関する内容の科目、シェイクスピアの戯曲を題材とする科目、英語能力試験に向けた内容をとりあげる科目、英語によるディスカッションやプレゼンテーションを修得する科目などである。これにより学生は個々の学修計画に応じた履修ができる。

4. 専門科目

「専門科目」には講義科目、演習科目、実技・実習科目、個人レッスンの科目が含まれる。

講義科目においては、さまざまな音楽芸術およびその周辺領域の歴史と作品や、音楽作品の分析、音楽に関する思想等、より高度な音楽芸術の表現を行ううえで基礎となる知識を修得させる。また「ミュージックビジネスと社会」「ライブビジネスと社会」「芸術文化と社会Ⅱ」など、音楽と社会の関係性に焦点を当てる授業科目を開講する。これらにおいて学生は、社会人として音楽に関わりながら生きていくための知識を修得し、視野を広げることができる。また、キャリアについてより具体的・実践的に考える科目として、「ワールドインターンシップ①」、「同②」を開講する。

演習科目においては、音楽芸術の創作・演奏の技法を演習することにより修得させる。ここには、同じ器楽・声楽を専攻する複数の学生に対するグループ・レッスンや、合奏・合唱によりアンサンブル力を培うアンサンブル科目が含まれる。これらは個人レッスンで修得した表現スキルを応用する場となる。また、ソルフェージュ科目では、楽譜と音の関係を身体で正確に捉えさせ、音楽芸術の表現の基礎的能力を修得させる。これらにおいては、目的・内容と習熟度に応じた科目を開講する。

実技・実習科目においては、演奏会やライブコンサート等を実施する授業科目を開講し、学生がそれまでに修得した知識と技術を駆使して、音楽芸術の創作・演奏を実践させる。また副科レッスン科目を習熟度別に開講し、主たる領域以外の音楽芸術の創作・演奏を修得させる。それにより、学生は幅広い領域に関して理解を深め、それを主たる専攻における専門性の高度化に活かすことができる。

個人レッスン科目においては、各学生が主たる専攻とする音楽芸術の創作・演奏の個人レッスンを行う。

以上のほか、音楽芸術運営学科の専門科目の一部を、音楽芸術表現学科の選択科目として開講する（主に講義科目）。学生はそれぞれの学修計画と将来像に応じて、バレエ、ミュージカル、アートマネジメント、舞台スタッフ、音楽療法に関して、その基本的な知識を修得し、卒業後の進路に活かすことができる。

5. 授業科目の体系性

授業科目のうち、同一の名称に丸囲み数字（①、②・・・）がついているものは、その順に内容が高度化する。これは履修の順序を示すものでもあり、学生は基礎から応用まで、順を追って学修することになる。

授業科目のうち、同一の名称にローマ数字（Ⅰ、Ⅱ・・・）がついているものは、同じ領域・分野を対象とする授業科目であるが、その視座や方法が異なることを示す。ある授業科目のⅠとⅡの両者を履修することにより、学生は同様の対象を多面的に捉える術を学

ぶことができる。

このように授業科目の名称において、難易度・専門性と視座・方法を表現しており、学生は体系的に履修することができる。

(5) 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教育研究組織の考え方

音楽芸術表現学科には、教育課程を適切に運営するために必要な専任教員、兼任教員、兼任教員を確保し配置する。人数は専任教員 31 名（うち教授 20 名）、兼任教員 23 名、兼任教員 314 名の合計 368 名である。専任教員数及び教授数は、大学設置基準の定めを充たす。

音楽芸術表現学科には、音楽（作曲、鍵盤楽器、弦・管・打楽器、声楽、ジャズ・ポピュラー音楽）の創作・演奏の専門家として活動するために不可欠な、基礎的な素養およびその応用を教授研究することができる専任教員を配置する。本学科の特色は、音楽の創作・演奏の方法を、実践をとおして教授研究することにある。したがって、本学科は特に、音楽の創作・演奏の実践経験ならびに指導経験を有する者を数多く採用し、専任教員として配置する。

主要な授業科目は専任教員が担当する。ただし個人レッスンなど少人数で実施する授業科目を多く開講するため、教授活動において必要な教員数が多くなるという学科の特性から、一部の授業科目は兼任教員または兼任教員が担当する。その場合、兼任教員・兼任教員には、音楽の基礎的な素養およびその応用を教授することができる者を配置する。授業科目を兼任教員・兼任教員が担当するにあたっては、専任教員により構成される教学組織が責任をもって授業科目の内容、水準を確保し、授業運営を行う。

また、演習、実習・実技の科目の補助を主たる目的として、助手を 3 名、配置する。

教員の採用や昇格等は「専任教員選考規程」により適切に行う。

2. 適切な教員配置の計画

本学における定年は、教授 65 歳、准教授 62 歳、講師 60 歳である。

平成 29 年度時点の音楽芸術表現学科の専任教員の平均年齢は 57.8 歳（教授 61.9 歳、准教授 49.3 歳、専任講師 38.0 歳）で、年代別では 30～39 歳 1 名、40～49 歳 5 名、50～59 歳 11 名、60～64 歳 4 名、65～69 歳 8 名、70～74 歳 2 名である。

教員の構成は特定の範囲の年齢に著しく偏っているというわけではないものの、平均年齢はいくぶん高い傾向にある。これは、専任教員に作曲、器楽、声楽、ジャズ・ポピュラー音楽において豊富な実践経験を有する者（オーケストラや吹奏楽団などの音楽団体を定年退職した者を含む）を採用することが多いためである。こうすることで、いわば音楽芸

術表現の第一線の現場における経験を学生に伝えることができ、学生の学修意欲の向上、より適切な進路指導、研究のさらなる深化などを期待することができる。こうした採用の方針は、音楽の創作・演奏および指導の方法を、実践をとおして教授研究するという本学科の特色と密接に関わる。

専任教員が定年に達して退職する場合には、適切な専任教員を補充する。専任教員を補充するにあたっては、同様の領域を専門とし、能力および経験において十分に優れている者を採用するなど、教員組織の継続性に配慮する。

なお、本学には定年延長や再雇用の制度があり、これを「定年に関する規程」²で定めている。

3. 専任教員の位置づけ

音楽芸術表現学科の専任教員はすべて授業科目を担当して、責任をもって教授活動を行うとともに、各自の専門に係る研究をすすめる。担当科目数は、教授研究活動に支障が生じないように、また過多にならないように配慮する。

専任教員は1以上の教学組織に所属して、教授研究活動に責任をもって携わる。研究分野は音楽芸術の創作または演奏である。また、専任教員は1以上の教学運営組織に加わって、学校の管理運営に携わる³。

専任教員の勤務は週5日、午前8時45分から午後5時30分までを基本とする。また、助教・助手を除く専任教員は、1週に1日以上を自宅研修日（研究日）として、研究活動を行う。

（6）教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 授業期間、履修者数等

本学の学年は4月1日に始まり3月31日に終わる。これを2期に分け、前期と後期とする。授業期間は、前期・後期とも15週で、定期試験等の期間を含めると合計35週以上である。集中授業は、通常の授業が設定されていない日に行う。

各授業科目の履修者数は、過多・過少にならないよう配慮し、各科目の目的・方法、施設・設備等に応じて設定する。

2. 単位の計算方法等

本学は「履修規程」⁴により、学生の履修の方法、単位の計算方法等を定めている。

² 資料5-1：定年に関する規程

³ 教学組織、教学運営組織については（12）参照

⁴ 資料6-1：履修規程（平成28年4月1日施行のもの）

授業科目には、講義を主とする科目、演習を主とする科目、実技・実習を主とする科目、個人レッスンの科目、講義、演習、実技・実習のうち複数の方法を併用する科目、これら以外の科目をおく。

単位の計算方法については授業の方法、教育効果、授業外学修に必要な時間を考慮して、以下を原則として定めている（第3条）。

講義を主とする科目は、15時間に相当する授業（7.5コマ分）と30時間の授業外学修を行うことで1単位とする。

演習を主とする科目は、30時間に相当する授業（15コマ分）と15時間の授業外学修を行うことで1単位とする。

実技・実習を主とする科目は、45時間に相当する授業（22.5コマ分）を行うことで1単位とする。

個人レッスンの科目は、10分30回（合計300分）の個人レッスンを行うことで1単位とする。

講義、演習、実技・実習のうち複数の方法を併用する科目、これら以外の科目については、単位の計算方法を個別に定めている。

なお、本学は1コマを90分と定めている。

3. 履修単位の上限

本学は、大学設置基準第27条の2にもとづき、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が一年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を48単位と定めている。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、この上限を超えて履修科目の登録を認めることがある。それにあたってはグレード・ポイント・アベレージ（後述）を活用する。

4. 履修指導、履修モデル

学生は入学時のオリエンテーション期間にコースごとのカリキュラム説明、履修指導を受ける。オリエンテーション期間には授業科目ごとに履修相談会を開催する。履修登録はウェブサイトで行い、各年次に6回以上開かれるクラス全体会において、履修の確認・相談の機会を設ける。

既述のように、本学科では、学生は個々の習熟度および学修計画に即して授業科目を選択・履修することができる。学生がこうした特色を十分に活用できるように、丁寧な履修指導を行う。

本学科各コースは、養成する具体的な人材像に対応した履修モデルを設定する⁵。

⁵ 資料6-2：履修モデル

5. 成績評価

学生の成績は、授業科目の担当者により厳正に、授業計画書（シラバス）に明示された方法により評価する。成績評価は S（100～90 点）、A（89～80 点）、B（79～70 点）、C（69～60 点）、F（59 点以下）の 5 段階で、S～C を合格として単位を認定する。F ならびに M（試験未受験）、T（試験受験停止（出席不足））については不合格とする。

また、S を 4 ポイント、A を 3 ポイント、B を 2 ポイント、C を 1 ポイント、F・M・T を 0 ポイントとして、グレード・ポイント・アベレージ（GPA）を算出し、学生の成績評価および卒業判定の指標としている。

6. 卒業要件

音楽芸術表現学科は各コースにおいて表 6-1 のとおり卒業要件を設ける。これは、本学の教育目的と建学の精神、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、本学科の人材養成目的に照らして、卒業までに必ず修得すべき知識・技能を修得する授業科目と、各人の関心や将来展望に応じた知識・技能を選択的に履修する授業科目の単位数を計上したものである。

【表 6-1：各コースの卒業要件】

音楽芸術表現学科	必修科目			選択科目	合計
	教養科目	外国語科目	専門科目		
作曲・音楽デザインコース	12	8	48	56	124
サウンドプロデュースコース	12	8	66	38	124
指揮コース	12	8	64	40	124
ピアノミュージッククリエイターコース	12	8	50	54	124
ピアノ指導者コース	12	8	64	40	124
ピアノ演奏家Ⅰコース	12	8	68	36	124
ピアノ演奏家Ⅱコース	12	8	53	51	124
オルガンコース	12	8	44	60	124
電子オルガンコース	12	8	58	46	124
弦・管・打楽器コース	12	8	56	48	124
ウインドシンフォニーコース	12	8	64	40	124
弦・管・打楽器演奏家Ⅰコース	12	8	64	40	124
弦・管・打楽器演奏家Ⅱコース	12	8	66	38	124
ジャズコース	12	8	66	38	124
ポピュラー音楽コース	12	8	64	40	124
声楽コース	12	8	71	33	124

（単位：単位以上）

7. 既修得単位の認定

本学は、学生が本学に入学する前に、他の大学・短期大学における授業科目の履修により取得した単位については、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得した単位数として認定する。

(7) 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学の校地の面積は 23,365.52 m²で、収容定員上の学生一人当たり 10 平方メートルを乗じた面積 (11,800 m²) を上回っている。校舎の面積は 35,681.11 m²で、校地と同様、設置基準上必要な面積 (10,098 m²) を上回っている。

今回、基礎となる作曲学科、器楽学科、声楽学科を改組転換し、音楽芸術表現学科の 1 学科 (入学定員は変更しない) にするにあたっては、既存施設を利用することを前提としており、新規施設等の建築・建設計画の必要性はないと考えている。また、本学科の学生は、南校舎で授業を実施することとなる。

南校舎は小田急電鉄新百合ヶ丘駅から徒歩 4 分の距離にあり、学生・教職員の教授研究活動にとって利便性に富んだ環境にある。新百合ヶ丘駅は、東京都心 (新宿) から約 20 分の距離に位置し、都心の芸術文化施設へのアクセスも容易で、芸術文化を学ぶ学生にとって理想的な環境である。また校舎は、各階を「教室ゾーン」「練習室ゾーン」等、静けさが必要な部分と、音が出る部分に区分し、教授研究のための適切な環境を整備している。

さらにエレベーター、多目的トイレ、スロープ等を設置し、利便性の向上に努め、校舎全体のバリアフリーに配慮し、新耐震基準 (昭和 56 年 6 月建築基準法施行令改正) を満たしている。

校舎周辺は「川崎市緑の基本計画」の緑化推進重点地区に指定されており、校地内の緑化には力を注いでいる。ベンチを配置した緑化された庭、テラス等を配置し学生が利用できるよう整備している。また校舎内の全ての階にラウンジを設け、机と椅子を配し、休息や学生同士の交流が図れるようにしている。さらに本学所有の公開空地 (一般開放) にはベンチ等も設け、学生の休息その他の利用のための適当な空地を確保している。

運動場用地の面積は 623.52 m²で、学生が利用できるよう整備している。体育の授業は、音楽大学の特色を反映した実技内容のため、屋内のスタジオで行っている。

2. 校舎等施設の整備計画

「1」で記載したとおり、今回の音楽芸術表現学科の設置は、基礎となる 3 学科を 1 学科に改組転換するものであり、既存施設を利用することを前提としている。さらに、大学全体の収容定員についても変更しないため、教室数や研究室等を大幅に整備することは計画していない。

授業は、専門に応じて個人レッスンからアンサンブル、100 人を超える合奏や合唱等の授業まで多岐にわたり、それらの授業に対応するため大小多様な教室を設置している⁶。

⁶ 資料 7-1 : 南校舎の形態別教室等の面積、室数、用途

【表 7-1：南校舎の形態別教室等の面積、室数、用途（概要）】

形態	面積	室数	用途（ ）は室数
講義室・演習室	5,119.84 m ²	125 室	レッスン室 (73)、一般教室 (24)、アンサンブル室 (14) ミュージック・ラボラトリー教室 (4)、ゼミ室 (4)、アンサンブルスタジオ (3)、サウンド編集室・演習室 (3)
練習室・実習室	3,140.31 m ²	127 室	練習室 (104)、録音・調整スタジオ (6)、実習室・観察室 (6)、汎用スタジオ (4)、オーケストラスタジオ (2)、スタジオ (2)、ホール (2)、実習用サウンド編集室 (1)
情報処理学習施設	123.12 m ²	2 室	講義用メディアルーム (1)、実習用メディアルーム (1)

※大学院専用の教室等の面積、室数は除く

個人レッスン、グループ・レッスン、外国語、ソルフェージュ等の授業科目については能力別の少人数クラス編成を導入し、履修者が多い授業については、学修環境を公平に保つため、クラス分けを行い対応する。一方、合奏、合唱など、多数で行わなければならない授業は、それぞれ適切に人数配分を行う。

音楽芸術表現学科は、教養科目、外国語科目、専門科目合計して 436 科目を開講することとなるが、これは平成 28 年度に開講している基礎となる 3 学科合計の 459 科目よりも少ない。また、1 学科になることでクラス編成等は、基礎となる 3 学科よりも効率的に運用ができる。これらの理由から、施設・設備面において教育活動に支障を来すことはない。

音楽芸術表現学科に所属する専任教員 31 名には、全員分の個人研究室を用意する。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

今回の音楽芸術表現学科の設置は、基礎となる 3 学科を 1 学科に改組転換するものであり、既存施設を利用することを前提としている。さらに、大学全体の収容定員についても変更ないが、図書等については年次計画に沿って整備する。

本学図書館では、音楽の専門書や実用楽譜、視聴覚資料を中心に収集を行っている。近年は、ポピュラー音楽やジャズ等の資料収集にも力を入れ、蔵書全体のバランスに配慮している。資料の購入については、図書委員会が学生の意見も反映して選書し、各コースの学修支援に必要な資料を収集している。学術雑誌に関しては、国内外の音楽分野雑誌をはじめ、各資格課程に関連する分野の雑誌も揃えている。また、学生の研究用資料として海外の論文等も購入し、蔵書の充実を図っている⁷。

図書に関しては、音楽分野の和書・洋書を中心に揃え、一般分野の図書も授業に関する資料を優先に収集している。

楽譜に関しては学生の専攻分野に応じて、実用楽譜から専門的な研究資料まで、学修や研究に必要な資料を提供している。

視聴覚資料に関しては、CD・DVD・Blu-ray Disc・LD・VHS・レコードを中心に、様々な演奏家の録音・映像資料を揃えている。再生機器の販売が終了した資料に関しては、優

⁷ 資料 7-2：学術雑誌リスト

先順位を決めた上で媒体変換を行い、学生の利用に供している。さらに、過去の卒業公演や本学主催の演奏会、講演会等の学園アーカイヴ史料の媒体変換や、特別資料のデジタル化を実施し、学生の学修や研究に役立てている。

また、貴重な音楽写真を収集した日本有数のコレクションである「小原・堀田写真コレクション」を有しており、学内外の利用に供している。

オンラインデータベース、電子ジャーナルの充実を図り、視聴覚資料、楽譜、文献・雑誌記事等の学術情報、論文（国内・海外）、新聞記事、音楽事典のデータベースを既に導入している⁸。

これらの多くは、学内端末に限らず、自宅等学外のパソコンやスマートフォンからもアクセス可能となっており、24時間利用できる環境を整え、学修や研究に活用できるようになっている。

図書館は、南校舎地下に位置し、併設する短期大学部と共用している。延べ床面積は、1,597 m²で、閲覧席 326 席（資料閲覧用 275 席、視聴覚用 40 席、個人キャレル 7 席、オンラインデータベース閲覧用 4 席）を整備している。館内のレイアウトは利用者の便を優先し、開架音楽図書架・開架一般図書架・閲覧席・視聴覚ブース・データベース閲覧席・個人キャレル・資料等の閲覧に複数人で利用できるグループエリアに区分して配置している。

個人キャレルでは、図書館資料（視聴覚以外）のほか、電源や Wi-Fi を提供しているため、個人用 PC を持ち込んで勉強することができる。データベース閲覧席では、オンラインデータベース、本学所蔵の特別資料を電子化したデータ、「国立国会図書館デジタルコレクション」などを閲覧することができる。

現在、所蔵資料の書誌情報はデータ化し、館内に検索用端末 8 台、貸出用情報端末 15 台を常備して所蔵情報を提供している。平成 20 年 5 月からは、OPAC（蔵書検索システム）を公開したことにより、学内はもちろん外部からも所蔵資料の検索が可能である。本学の OPAC は、タイトル（収録曲）のほか、楽器名、楽曲分類など、学生が検索しやすいような仕様を施しており、作曲家、演奏家、編曲家等の人名については、音楽典拠データベースを導入することで、ヒット件数を上げている。学生・教員に対しては、OPAC ガイダンスや情報検索ガイダンスなどを実施して、利用率の向上を図っている。

レファレンスについては、音楽大学を卒業し、図書館司書資格を有する職員が担当し、学生のみならず教員のレファレンスにも対応している。

本学に所蔵のない資料については、相互利用（ILL）サービスを利用して、他の図書館から図書や雑誌、記事、論文のコピーなどの取り寄せも行っている。

音楽図書館協議会にも加盟しており、音楽に特化した資料の相互貸借、文献複写サービ

⁸ 資料 7-3：データベース、電子ジャーナルリスト

ス、訪問利用も可能となっている。

(8) 入学者選抜の概要

1. アドミッションポリシー

音楽芸術表現学科は、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創作できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を養成するための専門教育を行う。このような人材を受け入れるため、本学では、アドミッションポリシーを以下のとおり設定する。

本学では、「礼・節・技の人間教育」を建学の精神とし、各々の専門分野における実践的な能力を備えた人材を育成することを目的としています。建学の精神と教育目的を理解し、基礎的な演奏技術や専門知識だけではなく、基礎的な学力と豊かな人間性を併せ持ち、将来、音楽人として社会に貢献することが期待できる資質・能力を有する人材を受け入れます。

2. 選抜方法

音楽芸術表現学科（募集人員：175名）は、アドミッションポリシーに基づき、5つの入試制度により入学者選抜を行う。

① 一般入試

音楽芸術表現学科で学ぼうとする者を広く募集する入試であり、実技、一般科目、楽典、ソルフェージュや副科ピアノなどを試験科目とする。一般科目では、大学入試センター試験の成績を利用するか本学の一般科目を受験するか、どちらかを選択できる。

② AO（アドミッションズオフィス）入試

本学の教育方針等を理解し、本学で学修する事を強く望む者を対象とし、実技試験や面接の入学試験を通して入学志願者と大学が相互の理解を深めながら入学者を選考する。入学者自らの意志で出願でき、主科に関わる課題などのほか AO 面接を実施する。AO 入試は複数回開催し、各回で合否判定を行い、合格に至らなかった科目については3回を上限として再受験ができるようにする。なお、再受験の際も面接は必ず実施する。

③ 特待生入試

勉学に対する強い意志を有し、学業成績・人物ともに優秀な受験生を対象に「特待生作文」「特待生面接」を加えた試験を実施する。合格者は成績に応じて授業料の納入が免除される。また、特に優秀な成績を修め、将来が囑望される者については、授業料の全額免除に加え、施設費も免除されることがある。

特待生入試以外の入試（AO 入試、公募・指定校入試、一般入試）でも、試験成績により特待生候補者として指名されることがある。この場合、候補となった者には必要な

科目の追加試験を実施する。なお特待生については入学後、各年次の成績により継続して審査していく。

④ 公募・指定校推薦入試

公募推薦入試は学業・人物ともに優良で、音楽の才能・資質に恵まれ将来性のある者で、かつ勉学に意欲があり、出身高等学校が特に推薦する本学専願者を対象とする。

指定校推薦入試は本学指定高等学校の在校生で学業・人物ともに優良で、音楽の才能・資質に恵まれ将来性のある者で、学校長が特に推薦する本学専願者を対象とする。

⑤ 外国人留学生入試

外国人が本学に入学しようとする場合は、一般の日本人受験生用の入学試験による受験、もしくは外国人留学生入学試験による受験のいずれかでの受験を選択できる。外国人留学生入試は書類審査（一次試験）と主科実技課題、留学生作文、面接（二次試験）を行う。

選抜にあたっては、すべての入試において、専攻するコースに関する実技試験と、面接を実施し、さらに高等学校からの調査書も活用することで、入学志願者の能力・意欲・適性等を多角的・総合的に評価・判定できるようにする。

なお、音楽学部全体の募集人員は 275 名で、そのうち公募・指定校推薦入試の募集人員は 75 名（全体の 27.3%）とする。

3. 選抜体制

教授会の下にアドミッションセンター、アドミッション委員会、入試委員会、入試小委員会、入試実施本部を置き相互に連携して入試の運営を担っていく。

アドミッションセンターとアドミッション委員会は、入学試験の基本方針の立案などの計画の策定を主な業務とする。

入試委員会と入試小委員会は、入試に関する業務が円滑に運営するために設置する。入試委員会の委員は、学長、研究科長、学部長、各部会の主任、常務理事（教学担当）、事務局長、教授会が必要と認めた者で構成し、入学試験の出題・採点及び面接委員等の選考に関する事、入学試験要項の作成に関する事、入学試験の実施に関する事、入学試験の合否判定案に関する事及びこれに伴う特待生推薦案に関する事を主な業務とする。入試実施本部は、入試当日の進行の管理・運営を行うことを主な業務とする。

入学試験の出題・採点委員は、専任教員及び非常勤教員の中から専門分野ごとに選出し、入試委員会、教授会で審議したうえで決定する。入試問題は、出題委員がアドミッションポリシーに基づいて独自に作成し、厳重に保管する。入試問題の出題にあたっては、問題作成時および試験前に複数体制でチェックを行う。入学試験の実施にあたっては、監督者や各会場の担当者にマニュアルを配付して、各試験の前に打ち合わせを実施し、適切に運

用する。なお、実技試験のほか面接も複数の専門分野の教員が採点委員となり行う。

可否判定は入試委員会で審議したうえで、教授会の議を経て学長が決定する。可否は、学内掲示とウェブサイトで発表し、併せて受験者本人に書面をもって通知する。

科目等履修生、研究生の制度を設け、正規の学生の教育に支障がない人数を、書類審査・面接審査などによって受け入れる。科目等履修生は、既修得科目の再履修は認めず、個人レッスン、グループ・レッスンと教職課程の科目履修については本学音楽学部の卒業者のみを対象として対応する。研究生は、個人レッスン、グループ・レッスンについて正規の学生の教育に支障がない若干名を受け入れる。

(9) 取得可能な資格

音楽芸術表現学科において取得可能な資格は表 9-1 のとおりである。

【表 9-1：音楽芸術表現学科において取得可能な資格】

資格課程名称	① 国家資格か民間資格か ② 資格取得が可能なのか受験資格が取得できるのか ③ 資格取得が修了要件なのか追加科目を履修する必要があるか
教職課程 ・ 中学校教諭一種免許状（音楽） ・ 高等学校教諭一種免許状（音楽）	① 国家資格 ② 資格取得が可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
学芸員課程 ・ 学芸員	① 国家資格 ② 資格取得が可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要
社会教育主事課程 ・ 社会教育主事	① 国家資格 ② 資格取得が可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目（62 単位以上）のほか、社会教育主事関連科目の履修が必要
司書課程 ・ 司書	① 国家資格 ② 資格取得が可能 ③ 卒業要件単位に含まれる科目（62 単位以上）のほか、司書関連科目の履修が必要

(10) 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

1. 実習先確保の状況

実習先確保の状況は表 10-1 のとおりである。

【表 10-1：実習先確保の状況】

施設名	所在地	受入れ可能人数	備考
昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室	神奈川県川崎市麻生区	「インターンシップ」12～13名	既設学科にて最大13名の受入実績あり
(株)インフュージョンデザイン	東京都渋谷区	「フィールドインターンシップ①」、「同②」合計1～2名	平成25～26年度に合計2名の受入実績あり
(一社)日本クラシック音楽事業協会	東京都品川区	「フィールドインターンシップ①」、「同②」合計2名	平成26～27年度に合計3名の受入実績あり
シアー(株)	東京都渋谷区	「フィールドインターンシップ①」、「同②」合計2名程度	平成26年度に2名の受入実績あり
(認)トリトン・アーツ・ネットワーク	東京都中央区	「フィールドインターンシップ①」、「同②」合計2名	平成26～27年度に合計2名の受入実績あり
(株)パソナ	東京都千代田区	「フィールドインターンシップ①」、「同②」合計1～2名	平成28年度新規
昭和音楽大学イタリア研修所	イタリア共和国ヴェネト州スキアヴォン	「海外研修Ⅰ」70名 「海外研修Ⅱ」70名 「海外研修Ⅳ」70名	既設学科にて各科目、例年約70名の受入実績あり
バークリー音楽大学	アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン	「海外研修Ⅱ」20名	既設学科にて例年約10名の受入実績あり
ミラノ・スカラ座アカデミア	イタリア共和国ロンバルディア州ミラノ	「海外研修Ⅱ」30名前後	既設学科にて例年30名前後の受入実績あり
フィレンツェ五月音楽祭アカデミア	イタリア共和国トスカーナ州フィレンツェ	「海外研修Ⅱ」30名前後	平成28年度新規

2. 実習先との連携体制

昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室：本学附属機関であり、普段より緊密に連携している。

株式会社インフュージョンデザイン、一般社団法人日本クラシック音楽事業協会、シアー株式会社、認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク、株式会社パソナ：科目の担当教員が各研修先担当者と面会した上で、正式な依頼状を提出している。通常連絡・調整は電話、電子メールで行っている。研修終了後には、研修先担当者を招いて、研修した学生による報告会を開催し、研修先にフィードバックする。

昭和音楽大学イタリア研修所：本学の関連財団が運営する施設であり、普段より緊密に連携している。

バークリー音楽大学：本学の学長およびコース責任者と、バークリー音楽大学の教育責任者の合意のもと、科目の担当教員がバークリー音楽大学の担当教授および事務局ディレクターと連絡・調整している。

ミラノ・スカラ座アカデミア：本学の学長およびコース責任者と、ミラノ・スカラ座アカデミアの芸術監督の合意のもと、科目の担当教員が研修先のプログラム・コーディネーターと連絡・調整している。

フィレンツェ五月音楽祭アカデミア：本学の学長およびコース責任者と、フィレンツェ五月音楽祭アカデミアの芸術監督の合意のもと、科目の担当教員が研修先のプログラム・コーディネーターと連絡・調整している。

3. 成績評価体制及び単位認定方法

「インターンシップ」：課題提出（レポート）、授業・実習における成績および取り組みの姿勢を考慮して、担当教員が総合的に評価する。

「フィールドインターンシップ①」、「同②」：研修成果の報告、報告会でのプレゼンテーション、授業内で実施するコメントシートをもとに、担当教員が総合的に評価する。

「海外研修Ⅰ」：成果発表（発表会）と課題提出（レポート）で行うが、発表に至るまでの研修全体への取り組み方も考慮し、担当教員が総合的に評価する。

「海外研修Ⅱ」：研修後の課題提出（レポート）に加えて、研修全体への取り組み方も考慮して、担当教員が総合的に評価する。

「海外研修Ⅳ」：事前研修と研修後の課題提出（レポート）により、担当教員が評価する。

4. 特記事項

いずれの科目も、既設の学科で開講しているものを発展的に継承・実施するもので、研修を実施するためのノウハウ等の蓄積がある。また、研修先との調整は通常より継続的に行い、学生の受け入れに心配はない。

「フィールドインターンシップ①」、「同②」では、履修者の希望に応じて、既設の他学科で開講している学外実習科目の研修先に受け入れを依頼するほか、新規の企業・機関に受け入れを申し入れる。

（11）編入学定員を設定する場合の具体的計画

1. 既修得単位の認定方法

音楽芸術表現学科では、既設の作曲学科、器楽学科、声楽学科の編入学定員を継承し、3年次 35名を編入学定員として設定する。

編入学試験は年に2回実施し、試験実施の1ヶ月前までに編入学試験を受ける者の既修得単位のうち、音楽芸術表現学科で開設する教養科目、外国語科目、専門科目に相当する単位を部会・分科会、入試委員会で確認する。単位の認定は、1年次、2年次に開講する科目を中心に教育課程運用委員会で審議し、さらに教授会で審議したうえで学長が決定する。なお、卒業要件単位（124単位以上）のうち、入学前の既修得単位等の認定は、学則第17条に明示している。例えば声楽コースの卒業要件単位は、以下のとおりとなる。

【表 11-1：編入学生の卒業要件単位（声楽コース）認定単位を含む】

	必修科目			選択科目	合計
	教養科目	外国語科目	専門科目		
声楽コース	12	8	71	33	124

(単位:単位以上)

声楽コースの教育課程においては、教養科目、外国語科目、専門科目の科目区分に応じた、必修科目、選択科目の単位修得が必要となっているが、編入学生が入学前の短期大学等において修得した単位は、その授業概要、シラバス等の内容を確認し、本学において修得した単位として認定する⁹。

2. 履修指導方法

編入学生は入学時のオリエンテーション期間にコースごとのカリキュラム説明、履修指導を受ける。オリエンテーション期間には授業科目ごとに履修相談会を開催する。各年次に6回以上開かれるクラス全体会において、履修の確認・相談の機会を設ける。

既述のように、本学科では、学生は個々の習熟度および学修計画に即して授業科目を選択・履修することができる。学生がこうした特色を十分に活用できるように、丁寧な履修指導を行う。

(12) 管理運営

1. 教学面における管理運営体制

本学では、学則第43条第1項に「学長は、本学を代表し校務をつかさどり、所属教職員を統督する」と定め、学長の意思決定の権限と責任を明確にしている。最終意思決定は学長が行い、教授会は、学長が決定するにあたり意見を述べる諮問機関としての役割を担っている。

教授会は、学長、学部長、専任の教授、准教授及び講師で構成され（教授会規程第2条第1項）、原則として月1回開催している（教授会規程第4条）。教授会の審議事項は、学則第44条第2項に「学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする」、同条第3項に「教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる」と規定している。具体的には、「学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べる」事項として、①学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、②学位の授与に関する事項、③教育課程の編成に関する事項、④教学に関する諸規程の制定、改廃に関する事項、⑤教員の研究等に関する事項、⑥その他、学長が教授会の意見を聴くことが必要とした教育研究上の重要な事項、と規定している。また、「教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べる」事項として、①学生の転学、転科、休学、復学等に関する事項、②学生の厚生補導に関する事項、③学生の賞罰に関する事項、④除籍に関する事項、⑤その他、教授会で審議が必要と思われる事項、と規定している。

⁹ 資料 11-1：編入学生の既修得単位の認定例、編入学後の履修モデル（声楽コース）

2. 教授会の下部組織

本学では、教授会の下に教学組織と教学運営組織を置いている¹⁰。

教学組織は、教育課程における専門分野の課題等を審議するため、教員を構成員とする部会・分科会を組織している。

部会・分科会は、それぞれの専門分野に対応した教育指導に関わり、主にカリキュラムや授業内容の検討、授業及び試験の運用、学修成果の発表等を行っている。部会には、責任者として主任を置き、事務取扱の教員が補佐する体制としている。分科会には、責任者として主査を置き、書記の教員が補佐する。専任教員は必ずいずれかの部会・分科会に所属している。原則として月1回定期的に会議を開催し、部会・分科会で協議した事項のうち本学全体に関わるものや調整を伴うもの等は、教学運営組織である各種委員会に諮っている。

教学運営組織は、全学に共通する課題等を審議するため、委員会を組織し、学科・コース等の枠を超える横断的な組織として位置づけている。

委員会には責任者として委員長を置き、構成員は教職協働体制となっている。委員会には、その職務のうち特定の分野について審議を行うため、必要に応じて作業部会を置いている。委員会及び作業部会で協議した事項について、部会・分科会に対して提案または検討を依頼するなどの連携を行っている。

(13) 自己点検・評価

1. 実施方法

本学では、学則第1条に明示した教育目的に則り、学則第2条第1項の規定する点検評価委員会が、自主的・自律的な自己点検・評価を行っている。点検評価委員会は、平成5年度から取り組みを始め、自己点検・評価活動を毎年度行っている。

2. 実施体制

点検評価委員会は、学長を委員長として、研究科長、学部長、図書館長、理事長、常務理事、事務局長、事務局の部長以上を委員として構成することにより、点検評価委員会が審議した内容が大学全体で共有できる体制となっている。点検評価委員会の主な役割は、自己点検・評価項目の設定、実施、分析、改善を行うことである。

自己点検・評価の業務は多岐にわたるため、点検評価委員会の下に点検評価小委員会を置き、①点検評価項目及び実施計画、②点検評価の実施、③点検評価の報告書の作成・公表、④点検評価委員会の求める事項、⑤その他点検評価に関する事項、を職務として、自

¹⁰ 資料 12-1：教学組織・教学運営組織

自己点検・評価が詳細に実施・検討できる体制となっている。点検評価小委員会は、教学組織である部会・分科会の専任教員と事務職員により構成している。点検評価小委員会で審議した内容は、部会・分科会においても共有している。

3. 結果の活用・公表及び評価項目等

自己点検・評価の結果は、点検評価委員会が『自己点検評価書』としてまとめ、運営委員会、理事会、教授会を通じて学内共有をしている。『自己点検評価書』は、評議員会及び理事会に提出し、評議員と理事はその結果を共有している。さらに、本学のウェブサイトで公表している。

また、平成 27 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の機関別認証評価を受審し、平成 28 年 3 月に「適合」との認定を受けた。この評価結果と『自己点検評価書』は本学のウェブサイトに掲載している¹¹。

点検評価委員会が中心となっていく主な点検・評価の項目は、大学の教育研究理念、目的及び基本構想、学部・学科・研究科・専攻等の教育目標及び教育課程、教育研究組織及び管理運営、入学者選抜、地域社会との交流、研究活動、教育研究予算等、学内の教授研究全般に関する内容である。

(14) 情報の公表

本学は、公的な教育機関として社会に対する説明責任を果たすために、ウェブサイトや印刷物を活用しながら情報の公表を積極的に行っている。平成 23 年 4 月 1 日から施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」（平成 22 年文部科学省令第 15 号）に基づき、下記①から⑩の項目について、本学のウェブサイトで公表している。

① 「大学の教育研究上の目的に関すること」

トップ>大学・短大 学科・コース紹介>教育方針・ポリシー・学修成果

上記において、教育目的、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、人材養成目的を公表している。

② 「教育研究上の基本組織に関すること」

トップ>学園案内>情報公開>教育研究上の基礎的な情報

上記において、学科名、コース名を公表している。

③ 「教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること」

トップ>学園案内>情報公開>修学に関する情報

¹¹ トップ>学園案内>情報公開>点検評価報告書

上記において、教員組織（教学組織・教学運営組織、教員の年齢構成）と専任教員が有する学位及び業績を公表している。

トップ>学園案内>情報公開>教育研究上の基礎的な情報

上記において、教員数を専任教員と非常勤講師とに分けて公表している。

④ 「**入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること**」

トップ>学園案内>情報公開>修学に関する情報

上記において、アドミッションポリシー、入学定員、入学者数、在籍者数、修了者数、進学者数、就職者数を公表している。

⑤ 「**授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること**」

トップ>学園案内>情報公開>修学に関する情報

上記において、授業科目、シラバスを公表している。

⑥ 「**学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること**」

トップ>学園案内>情報公開>修学に関する情報

上記において、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準を公表している。

⑦ 「**校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること**」

トップ>学園案内>キャンパス・施設

上記において、校舎の施設、学生寮、交通アクセスを公表している。

⑧ 「**授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること**」

トップ>学園案内>情報公開>教育研究上の基礎的な情報

上記において、入学金、授業料、学生会費等を公表している。

⑨ 「**大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること**」

トップ>学園案内>情報公開>修学に関する情報

上記において、修学支援、経済支援、進学・就職支援、生活支援、心身の健康等に係る支援を公表している。

⑩ 「**その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）**」

(1) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

トップ>学園案内>情報公開>修学に関する情報

上記において、学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を公表している。

(2) 自己点検・評価報告書、認証評価の結果

トップ>学園案内>情報公開>点検評価報告書

上記において、自己点検評価書を公表している。

(3) 財務情報、事業報告書

トップ>学園案内>情報公開>財務情報・事業報告書

上記において、事業報告書、財務諸表、監査報告書を公表している。

(4) 設置計画履行状況等報告書

トップ>学園案内>情報公開>設置計画履行状況報告書

上記において、設置計画履行状況報告書を公表している。

なお、今後、音楽芸術表現学科に関する情報についても公表する。

(15) 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

教員の研修は、学内に設ける FD 委員会が主導し、研修会や授業評価アンケート等の機会を提供する。この取り組みは既に実施しており、音楽芸術表現学科の開設後も、組織的に継続していく。

研修会は、すべての教員を対象とした FD 合同研修会と、部会・分科会による FD 研修会を行う。FD 合同研修会は、原則として4月と9月の年2回開催し、部会・分科会 FD 研修会では、「FD 年間テーマ」を設定し、複数回開催していく。また、教員の資質・能力向上への取り組みとして「学生による授業評価アンケート」を実施する。このアンケートはすべての授業科目について年1回実施する。

研修会の参加教員には「参加報告書」の提出を義務付ける。その内容は FD 委員会で分析し、次の研修会の内容に反映させていく。「学生による授業評価アンケート」の授業担当教員には「改善計画書」の作成を依頼し、PDCA サイクルを確立していく。

上記のほか、教員の資質・能力向上に関して、専任教員の研究を促進するため、専任教員が非常勤教員や併設する短期大学の教員と共同で研究するための「共同研究費規程」、研究成果を発表するための「研究紀要関係内規」、「教育職員研究発表規程」、「研究員研究発表規程」を整備している。さらに「学長裁量経費規程」を整備し、学内において教育改革に取り組む教職員または部会・分科会等の組織に対して、学長の裁量により積極的に予算を配分する。

(16) 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

本学は平成 22 年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択されたことを機に、体系的なキャリア教育を教育課程の中に位置づけ、学生が自己の資質や能力を活か

し主体的にキャリア形成していくことを積極的に支援している。

また、キャリア形成に資する授業科目を「キャリア科目」として設定し、学生自身の専門分野の科目と組み合わせて履修することで自己のキャリア形成に役立てるよう促していく¹²。さらに、実践的なキャリア教育推進のために、ウェブサイト上にポートフォリオ・システムを開設し、これの活用を教育課程に組み込む。

2. 教育課程外の取組について

学生や卒業生の進路・就職等の相談・助言を行う場として「キャリアセンター」を設置している。「キャリアセンター」では、キャリアカウンセラーと就職相談員が、就職・進学・留学・演奏活動等についての相談に対応し、内容によって複数の教員と連携をとり、学生に対してきめ細かな進路指導を行う。

また、キャリア支援講座・企業説明会・学内合同企業説明会を実施していく。具体的な例としては、「就職活動スタートガイダンス」、「教員採用試験受験対策講座」、「保育士資格試験対策講座」のほか、就職活動に関するマナー、面接対策、エントリーシートの書き方等の各種講座などである。これらの情報は、学内掲示板、ウェブサイト、メールマガジン、Facebook 等で学生や卒業生に案内しているほか、メールアドレスを登録している学生たちに直接配信していく。

さらに、在学生に進路意識調査¹³、卒業年次の学生に進路決定状況調査¹⁴を実施し、在学生の進路に対する意識や卒業後の就職・進学・演奏活動等の状況を把握してキャリア支援に活用する。

3. 適切な体制の整備について

上述したとおり、教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための組織としてキャリアセンターを設置し、キャリア教育ならびに、就職・進学等に関する相談・助言などの業務を行う体制を整備する¹⁵。

キャリアセンターは、音楽大学としての特性を活かしたキャリア教育の推進及び学生の進路支援を行うことを目的として、平成 23 年に設置し、センター長、キャリア委員、キャリアカウンセラー、キャリア支援室職員により構成している。キャリアセンターの基本方針の策定や運営に関する事項、部会・分科会、事務局との調整などを行うためキャリア委員会を設置している。

¹² 資料 16-1：キャリア科目一覧

¹³ 「進路意識調査」は、学生の学修の状況や進路に対する意識を把握し、卒業後の進路についての確かなアドバイスをを行うことを目的として実施する。

¹⁴ 「進路決定状況調査」の結果は、キャリアセンターで学生の指導に活用していく。

¹⁵ 資料 16-2：キャリアセンター規程

昭和音楽大学

アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

アドミッションポリシー

本学は「礼・節・技の人間教育」を建学の精神とし、各々の専門分野における実践的な能力を備えた教養豊かな人材を育成することを目的としています。建学の精神と教育目的を理解し、基礎的な演奏技術や専門知識だけではなく、基礎的な学力と豊かな人間性を併せ持ち、将来、音楽人として社会に貢献することが期待できる資質・能力を有する人材を受け入れます。

カリキュラムポリシー

本学は、建学の精神に基づき教育目的を達成するために、各コースの教育課程を「専門科目」、「外国語科目」、「教養科目」の3領域に区分して編成し実施しています。コースごとに定められたカリキュラムを4年間履修することにより、幅広い専門知識、高い技能や応用能力に加えて、社会人として求められる汎用的能力も学修成果として獲得できるように配慮されています。また、卒業後の進路や将来の目標を考える指針として、キャリア教育科目を適切に位置づけています。

ディプロマポリシー

本学は、所定のカリキュラムにおいて厳格な成績評価のもとに単位を修得した者について、各コースの専門的学修成果および汎用的学修成果を獲得し、建学の精神に基づき教育目的を達成し、社会に貢献できる人材であると認め、各々の専門分野に応じて学士（音楽）または学士（芸術）の学位を授与します。

定年に関する規程

(目的)

第1条 この規程は就業規則第22条に基づき、同2条第1項に規定する職員に関する定年について定める。

(定年)

第2条 職員は下記に定める満年齢の年度末をもって、定年により当然に雇用契約が終了する。

教授 65歳 准教授 62歳 講師 60歳 助教 60歳
助手 60歳
事務職員 62歳

2. 満65歳を過ぎて雇用された教授については前項にかかわらず、満68歳の年度末をもって定年により当然に雇用契約が終了する。

(定年延長)

第3条 業務の都合上により特に必要と認められた者については、定年を延長することがある。

2. 前項の決定は、運営委員会の議を経て理事長が行う。

(再雇用)

第4条 本学園を定年退職した教育職員のうち、教授については業務の都合上により特に必要と認められたものについては、期間の定めのある専任教員又は非常勤講師として再雇用することがある。

2. 本学園を定年退職した教育職員のうち、准教授以下については本人の希望と適性をもとに、満65歳の年度末まで期間の定めのある専任教員又は非常勤講師として再雇用する。

3. 本学園を定年退職した事務職員については、本人の希望と能力により、満65歳の年度末まで特別嘱託として再雇用する。ただし、本人が就業規則の定めと異なる勤務条件を希望する場合には嘱託として再雇用することがある。

4. 本条第1項から第3項の決定は、運営委員会の議を経て理事長が行う。

5. 本条第1項から第3項に関する雇用条件については、別に定める規程による。

(適用除外)

第5条 理事・学長の職にある者については、その職にある間は本規程を適用しない。

2. 第2条第2項の満年齢を過ぎて前項の職にある者が、その職を退いたときはその日をもって定年により退職とする。ただし、第3条の適用は妨げない。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長が行う。

附 則

(施行期日) 昭和56年4月1日

(経過措置) 昭和56年4月1日現在第2条第2項の年齢に達している者、及び昭和57年3月31日までに第2条第2項の年齢に達する者であっても、昭和57年3月31日までは本規程は適用しない。ただし、この期間においても本規程第2条の適用は妨げるものではない。

附 則 昭和59年4月1日改正施行

附 則 この規程は昭和63年4月1日より改正施行する。

(経過措置) 昭和63年4月1日現在在籍する教育職員のうち、教授並びに東京声専音楽学校教員で昭和63年度中に満年齢67歳以上に達する者、並びに事務職員で昭和63年度中に満年齢58歳以上に達する者についての定年年齢は別表のとおりとし、第2条第2項の規定は適用しない。

附 則 この規程は平成7年4月1日より改正施行する。

(経過措置) 平成7年4月1日現在在籍する教育職員のうち、教授で平成7年度中に満年齢63歳以上に達する者についての定年年齢は別表のとおりとし、第2条第2項の規定は適用しない。

[別表]

生 年 月 日	平成8年3月31日 現在の年齢	定年令	退職年度
大14.4.1- 大15.3.31	70歳	70歳	平成7年度末
大15.4.1- 昭2.3.31	69歳	70歳	平成8年度末
昭2.4.1- 昭3.3.31	68歳	70歳	平成9年度末
昭3.4.1- 昭4.3.31	67歳	70歳	平成10年度末
昭4.4.1- 昭5.3.31	66歳	70歳	平成11年度末
昭5.4.1- 昭6.3.31	65歳	70歳	平成12年度末
昭6.4.1- 昭7.3.31	64歳	69歳	平成12年度末
昭7.4.1- 昭8.3.31	63歳	68歳	平成12年度末

附 則 この規程は平成10年4月1日より改正施行する。

附 則 この規程は平成18年4月1日より改正施行する。

2. 平成18年度から平成24年度までの間、第4条第1項に規定する年齢の適用は次のとおり読み替え適用する。

- (1) 平成18年4月1日～平成19年3月31日 62歳
- (2) 平成19年4月1日～平成22年3月31日 63歳

(3) 平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日 64 歳

3. 平成 18 年度から平成 24 年度までの間、第 4 条第 2 項の規定は、次のとおり読み替え適用する。

(1) 平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日 本学園を定年退職した事務職員については、本人の希望と能力により、満 63 歳の年度末まで、特別嘱託として再雇用する。

(2) 平成 19 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日 本学園を定年退職した事務職員については、本人の希望と能力により、満 63 歳の年度末まで、特別嘱託として再雇用する。

(3) 平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日 本学園を定年退職した事務職員については、本人の希望と能力により、満 64 歳の年度末まで、特別嘱託として再雇用する。

4. 平成 18 年度から平成 24 年度までの間、第 4 条第 3 項に規定する年齢の適用は次のとおり読み替え適用する。

(1) 平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日 62 歳

(2) 平成 19 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日 63 歳

(3) 平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日 64 歳

附則 この規程は平成 21 年 12 月 18 日より改正施行する。

附則 この規程は平成 22 年 3 月 16 日より改正施行する。

ただし平成 21 年度定年退職者より適用する。

2. 平成 21 年度から平成 24 年度までの間、第 4 条第 2 項に規定する年齢の適用は次のとおり読み替え適用する。

(1) 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日 63 歳

(2) 平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日 64 歳

3. 平成 21 年度から平成 24 年度までの間、第 4 条第 3 項の規定は、次のとおり読み替え適用する。

(1) 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日 本学園を定年退職した事務職員については、本人の希望と能力により、満 63 歳の年度末まで、特別嘱託として再雇用する。

(2) 平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日 本学園を定年退職した事務職員については、本人の希望と能力により、満 64 歳の年度末まで、特別嘱託として再雇用する。

附則 この規程は平成 24 年 4 月 1 日より改正施行する。ただし、平成 24 年 4 月 1 日現在在籍する東成学園就業規則第 2 条第 1 項に定める教育職員のうち、生年月日が昭和 26 年 3 月 31 日以前の者については、第 2 条第 1 項に定める教授の定年年齢を別表のとおり読み替え適用する。

別表

生年月日	教授定年年齢	退職年度
昭和 20 年 4 月 1 日～昭和 21 年 3 月 31 日	67 歳	平成 24 年度末
昭和 21 年 4 月 1 日～昭和 22 年 3 月 31 日	67 歳	平成 25 年度末
昭和 22 年 4 月 1 日～昭和 23 年 3 月 31 日	67 歳	平成 26 年度末
昭和 23 年 4 月 1 日～昭和 24 年 3 月 31 日	67 歳	平成 27 年度末
昭和 24 年 4 月 1 日～昭和 25 年 3 月 31 日	67 歳	平成 28 年度末
昭和 25 年 4 月 1 日～昭和 26 年 3 月 31 日	66 歳	平成 28 年度末

昭和音楽大学 履修規程

(目的)

第1条 昭和音楽大学における授業科目の履修については、昭和音楽大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規程に定めるところによる。

(授業科目)

第2条 本学における授業科目は学則に定められたものとする。

(単位の計算方法)

第3条 授業科目の単位の算定は次の各号のとおりとする。ただし、授業時間については1コマ（90分）をもって2時間に相当するものとする。

- 2 講義を主とする科目は、15時間の授業と30時間の授業外学修をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、30時間の授業と15時間の授業外学修をもって1単位とし、これに該当する科目は別表1の(1)に定める。
- 3 演習を主とする科目は、30時間の授業と15時間の授業外学修をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、15時間の授業と30時間の授業外学修をもって1単位とし、これに該当する科目は別表1の(2)に定める。
- 4 実技・実習を主とする科目は、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、30時間の授業と15時間の授業外学修をもって1単位とし、これに該当する科目は別表1の(3)に定める。
- 5 個人レッスンの科目は10分30回の授業をもって1単位とする。
- 6 講義、演習、実技・実習のうち複数の方法を併用する科目の学修時間、単位については別表2のとおり定める。
- 7 前項までの規定に拠らない科目の学修時間、単位については別表3のとおり定める。

(授業科目の履修)

第4条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の方法で届け出なければならない。

(履修登録単位数の上限)

第5条 年間履修単位数の上限は、各学科の定めるところによる。ただし、必要に応じてこの上限を超えて履修を認めることがある。

(履修の取消)

第6条 他の学生に迷惑の及ぶ行為のあった場合、その他履修に支障があると判断される場合は、当該授業科目の履修を取り消すことがある。

(単位の認定)

第7条 単位修得の認定は、試験、課題提出等、担当教員が授業計画書（シラバス）に示した方法により総合的に行う。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、評価を受けることができない。

- (1) 評価を受ける科目の履修登録をしていない者
- (2) 授業欠席回数が、授業回数の3分の1を超えた者
- (3) 授業料その他の学納金未納の者

(4) 試験（レポートを含む）において不正行為をした者

（欠席の取扱）

第8条 学生は履修の届出を行った授業科目に出席しなければならない。

2 次の各号の一に該当する事由により授業を欠席した学生が、所定の手続きをした場合は公欠とし、定期試験の受験資格に関わる欠席回数には含まない。

(1) 忌引

イ、本人の父母・子・配偶者の死亡：7日以内（死亡日又は翌日から7日間を取得期間とし、連続した日数で日曜又は祝日もこの日数に含む。）

ロ、本人の祖父母・兄弟姉妹・孫、配偶者の父母・子、または子の死亡：5日以内（死亡日又は翌日から7日間を取得期間とし、連続した日数で日曜又は祝日もこの日数に含む。）

(2) 外国人留学生の法律上の手続き日。ただし、事前に交付を受けた所定用紙に手続き機関の証明を受けて、手続き後1週間以内に届け出た場合に限る。

(3) 学校保健安全法第19条に定める出席停止又はこれに類する措置を大学が指示した場合。ただし、診断書等の証明書類を添付して届け出た場合に限る。

3 次の各号の一に該当する事由により授業を欠席した学生が、所定の手続きをした場合は理由のある欠席とし、定期試験の受験資格に関わる欠席回数には含まない。

(1) 教職課程の教育実習

(2) 教職課程の介護等体験

(3) 学芸員課程の博物館実習

(4) 司書課程の図書館実習

(5) 上記各号に記された事柄の事前打ち合わせ

(6) 学内外での実習、演奏会又はそれに伴う練習のうち、学部教育課程運用委員会により認められたもの

(7) 就職試験日又は就職内定者のために就職先が行う研修。ただし、事前に交付を受けた所定の用紙に受験先・就職先の証明を受け、試験後・研修終了後1週間以内に届け出た場合に限る。

(8) その他特別な事由で、学部教育課程運用委員会により認められたもの

（規程の改廃）

第9条 この規程の改廃は学長が決定する。

附 則 この規程は平成27年4月1日より施行する。

昭和音楽大学公欠規程は平成27年3月31日をもって廃止する。

附 則 この規程は平成28年4月1日より施行する。ただし、平成27年度以前の入学者については、当該年度の履修規程による。

別表 1

	該当する科目と単位	学修時間
(1) 講義を主とする科目で、30時間の授業と15時間の授業外学修で1単位とするもの	(なし)	
(2) 演習を主とする科目で、15時間の授業と30時間の授業外学修で1単位とするもの	情報機器演習(基礎) 2単位 情報機器演習(応用)Ⅰ 2単位 情報機器演習(応用)Ⅱ 2単位	30時間の授業と60時間の授業外学修
(3) 実技・実習を主とする科目で、30時間の授業と15時間の授業外学修で1単位とするもの	体育実技 1単位	30時間の授業と15時間の授業外学修

別表 2

	該当する科目と単位	学修時間
(1) 講義と演習の方法を併用する科目		講義30時間および演習30時間および授業外学修75時間
	イヤートレーニング 2単位	講義15時間および演習15時間および授業外学修60時間
(2) 講義と実技・実習の方法を併用する科目	インターンシップ① 2単位 インターンシップ② 2単位	講義30時間と実習60時間
(3) 演習と実技・実習の方法を併用する科目	伴奏実習① 1単位 伴奏実習② 1単位 伴奏実習③ 1単位	演習15時間および実習15時間および授業外学修15時間
(4) 講義と演習と実技・実習の方法を併用する科目	海外研修Ⅰ 4単位	講義又は演習(外国語を含む)又は実技・実習126時間と授業外学修54時間
	海外研修Ⅱ 3単位 海外特別研修① 1単位 海外特別研修② 1単位	講義又は演習(外国語を含む)又は実技・実習90時間および授業外学修45時間
	海外研修Ⅳ 3単位 ヨーロッパ社会と芸術 3単位	講義又は演習(外国語を含む)又は実技・実習100時間と授業外学修35時間
	海外研修Ⅴ 3単位	講義又は演習(外国語を

		含む) 又は実技・実習 1 3 2 時間および授業外学 修 3 時間
	社会教育演習および実習 4 単位	講義又は演習又は実技 6 0 時間と授業外学修 1 2 0 時間

別表 3

	該当する科目と単位	学修時間
実技・実習と授業外学修 の時間を積算して単位を 認定する科目	海外研修Ⅵ 1 単位 海外研修Ⅷ 1 単位 海外研修Ⅸ 1 単位 海外研修Ⅹ 1 単位 海外研修Ⅺ 1 単位	計 4 5 時間の学修
	海外研修Ⅶ 2 単位 海外研修Ⅻ 2 単位 海外研修ⅬⅢ 2 単位 海外研修ⅬⅣ 2 単位	計 9 0 時間の学修
科目の名称と授業の種別 が異なる科目	教職実践演習 (中・高) 2 単位	講義 3 0 時間と授業外学 修 6 0 時間

資料 6-2 : 履修モデル

作曲・音楽デザインコース 養成する人材像:芸術音楽の作曲家等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件	
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位			
専門科目	必修	通年	作曲・エレクトロニクス実技①	6	通年	作曲・エレクトロニクス実技②	6	通年	作曲・エレクトロニクス実技③	6	通年	作曲・エレクトロニクス実技④	6	3 2	1 2 4 以上 4 以上 制限なし 1 2 4 単位以上	
		通年	コンピュータ音楽概論	4												
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4												
	選必①	通年	ピアノ①	4	通年	ピアノ②	4	通年	ピアノ③	4						1 0 以上
		通年			通年	ポリフォニー演習	2	通年	対位法	2						
		通年			通年			通年	オーケストレーション	4						
	選必②	通年	ミュージックセオリー(初級)	2												2 以上
		通年	ミュージックセオリー(中級)	2												
		通年	ミュージックセオリー(上級)	2												
		通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2									4 以上
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①	2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	2									
選択	通年	器楽Ⅱ①	各2	通年	器楽Ⅱ②	各2	通年	器楽Ⅱ③	各2	通年	器楽Ⅱ④	各2	制限なし			
	通年	声楽Ⅱ①	最低	通年	声楽Ⅱ②	最低	通年	声楽Ⅱ③	最低	通年	声楽Ⅱ④	最低				
	通年	電子オルガンⅡ①	4	通年	電子オルガンⅡ②	4	通年	電子オルガンⅡ③	4	通年	電子オルガンⅡ④	4				
	通年	オルガンⅡ①		通年	オルガンⅡ②		通年	オルガンⅡ③		通年	オルガンⅡ④					
	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①		通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②		通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4	前期	環境音楽論Ⅰ	2				
	通年	合唱①	2	通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4										
	前期	日本古典芸能Ⅰ	1	通年	オペラの歴史と作品	4										
	後期	日本古典芸能Ⅱ	1	通年	器楽の歴史と作品	4										
				前期	民族音楽概論Ⅰ	2										
				前期	日本音楽概論Ⅰ	2										
				後期	音楽心理学	2										
	教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1							1 2 単位以上	
通年			基礎ゼミ	2												
選択		前期	哲学	2												
	前期	西洋文化史Ⅰ	2													
	前期	日本文化史Ⅰ	2													
	前期	音響学	2													
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	各学年において最低4単位					8 単位以上			
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4									
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4									
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4									

専門科目の選必①のうち10単位を超えるものは選択の単位として計算する

注: 年間履修単位数の上限は48単位
 注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

作曲・音楽デザインコース 養成する人材像:エレクトロニカ音楽の創作者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件	
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位			
専門科目	必修	通年	作曲・エレクトロニクス実技①	6	通年	作曲・エレクトロニクス実技②	6	通年	作曲・エレクトロニクス実技③	6	通年	作曲・エレクトロニクス実技④	6	3 2	1 2 4 以上 4 以上 制限なし 4 単位以上	
		通年	コンピュータ音楽概論	4												
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4												
	選必				前期	デジタルミュージック概論	2	通年	音楽プログラミング演習	2	通年	映像制作演習	2	10以上		
					通年	サウンドデザイン演習	2	通年	グラフィックデザイン演習	2				2		
		通年	ミュージックセオリー(初級)	2										2		
		通年	ミュージックセオリー(中級)	2										以上		
	通年	通年	ミュージックセオリー(上級)	2										4		
		通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4		
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低							以上		
		通年	鍵盤ソルフェージュ①	2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	2							4		
	選択	通年	総合ソルフェージュ①	2	通年	総合ソルフェージュ②	2							4		
		通年	ピアノⅡ①	各2	通年	ピアノⅡ②	各2	通年	ピアノⅡ③	各2	通年	ピアノⅡ④	各2	制限なし		
		通年	器楽Ⅱ①	最低	通年	器楽Ⅱ②	最低	通年	器楽Ⅱ③	最低	通年	器楽Ⅱ④	最低			4
		通年	声楽Ⅱ①		通年	声楽Ⅱ②		通年	声楽Ⅱ③		通年	声楽Ⅱ④				
		通年	電子オルガンⅡ①		通年	電子オルガンⅡ②		通年	電子オルガンⅡ③		通年	電子オルガンⅡ④				
		通年	オルガンⅡ①	4	通年	オルガンⅡ②	4	通年	オルガンⅡ③	4	通年	オルガンⅡ④	4			
		通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	4	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	4	半期	録音制作Ⅲ	2	通年	スタジオワークス①	4			
通年		ポピュラー音楽概論	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4							
前期		舞台スタッフ論①	2	前期	映像の音楽	2	前期	舞台機構調整演習	2							
後期		舞台スタッフ論②	2	前期	録音制作Ⅰ	2	前期	環境音楽論Ⅰ	2							
				後期	録音制作Ⅱ	2										
				後期	PA演習	2										
				前期	民族音楽概論Ⅰ	2										
				前期	日本音楽概論Ⅰ	2										
				後期	音楽心理学	2										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上			
		通年	基礎ゼミ	2												
選必	前期	前期	哲学	2									8 以上			
		前期	西洋文化史Ⅰ	2												
		前期	日本文化史Ⅰ	2												
		前期	音響学	2												
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	各学年において最低4単位					8 以上			
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4									
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4									
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

サウンドプロデュースコース 養成する人材像:サウンドプロデューサー等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	サウンドプロデュース①	4	通年	サウンドプロデュース②	4	通年	サウンドプロデュース③	4	通年	サウンドプロデュース④	4	4 6	1 2 4 単位以上
		通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4	通年	音楽プロデュース論	4					
		通年	ソングライティング演習①	2	通年	ソングライティング演習②	2								
		通年	ポピュラー音楽概論	4	半期	録音制作Ⅲ	2								
		前期	録音制作Ⅰ	2											
		後期	録音制作Ⅱ	2											
		前期	ミュージックビジネスと社会	2											
		後期	ライブビジネスと社会	2											
	選必①	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	各2 最低2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	各2 最低2	通年	ポピュラー実技Ⅰ①	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ②	6	2	
		通年	ポピュラー・ヴォーカルⅡ①		通年	ポピュラー・ヴォーカルⅡ②		通年	ポピュラーアンサンブル①	2	通年	ポピュラーアンサンブル②	2	4	
		通年	インストゥルメンツⅡ①		通年	インストゥルメンツⅡ②		通年	ポピュラー作曲・編曲法③ スタジオワークス①	4 4	通年	ポピュラー作曲・編曲法④ スタジオワークス②	4 4	4 4	
	選必②	通年	基本ソルフェージュ①	各2 最低2	通年	基本ソルフェージュ②	各2 最低2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①		通年	聴音・視唱ソルフェージュ②									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
選択	通年	ミュージックセオリー(初級)	各2 最低2	後期	PA演習	2	前期	舞台機構調整演習	2				制限なし		
	通年	ミュージックセオリー(中級)		後期	芸術関係法規	2	通年	音楽情報論	4						
	通年	ミュージックセオリー(上級)		前期	ジャズの歴史と作品	2									
	前期	舞台スタッフ論①		2											
	後期	舞台スタッフ論②	2												
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	哲学	2											
		前期	西洋文化史Ⅰ	2											
		前期	日本文化史Ⅰ	2											
	前期	音響学	2												
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	各学年において最低4単位					8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4								
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4								
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4								

専門科目の選必①のうち24単位を超えるものは選択の単位として計算する

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

サウンドプロデュースコース 養成する人材像:サウンドクリエイター等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	サウンドプロデュース①	4	通年	サウンドプロデュース②	4	通年	サウンドプロデュース③	4	通年	サウンドプロデュース④	4	4 6	1 2 4 単位 以上
		通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4	通年	音楽プロデュース論	4					
		通年	ソングライティング演習①	2	通年	ソングライティング演習②	2								
		通年	ポピュラー音楽概論	4	半期	録音制作Ⅲ	2								
		前期	録音制作Ⅰ	2											
		後期	録音制作Ⅱ	2											
		前期	ミュージックビジネスと社会	2											
		後期	ライブビジネスと社会	2											
	選必①	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	各2 最低2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	各2 最低2	通年	ポピュラー作曲・編曲法③	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法④	4	2 4 以上	
		通年	ポピュラー・ヴォーカルⅡ①		通年	ポピュラー・ヴォーカルⅡ②		通年	スタジオワークス①	4	通年	スタジオワークス②	4		
		通年	インストゥルメンツⅡ①		通年	インストゥルメンツⅡ②		通年	オーケストレーション	4					
	選必②	通年	基本ソルフェージュ①	各2 最低2	通年	基本ソルフェージュ②	各2 最低2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①		通年	聴音・視唱ソルフェージュ②									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
選択	通年	ミュージックセオリー(初級)	各2 最低2	通年	ポリフォニー演習	各2 最低2	前期	舞台機構調整演習	2				制限 なし		
	通年	ミュージックセオリー(中級)		後期	PA演習		2	通年	作曲・編曲法Ⅱ	2					
	通年	ミュージックセオリー(上級)		後期	芸術関係法規		2	前期	環境音楽論Ⅰ	2					
	前期	舞台スタッフ論①		前期	ジャズの歴史と作品		2	通年	音楽情報論	4					
	後期	舞台スタッフ論②		前期	民族音楽概論Ⅰ		2								
				前期	日本音楽概論Ⅰ		2								
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	哲学	2											
		前期	西洋文化史Ⅰ	2											
		前期	日本文化史Ⅰ	2											
前期	音響学	2													
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	各学年において最低4単位					8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4								
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4								
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4								

専門科目の選必①のうち24単位を超えるものは選択の単位として計算する

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

指揮コース 養成する人材像:指揮者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	指揮実技①	6	通年	指揮実技②	6	通年	指揮実技③	6	通年	指揮実技④	6	5 8	1 2 4 単位以上
		通年	指揮演習①	2	通年	指揮演習②	2	通年	指揮演習③	2	通年	指揮演習④	2		
		通年	スコアリーダーイングⅠ①	2	通年	スコアリーダーイングⅠ②	2	通年	ピアノ③	4	通年	作曲Ⅱ②	2		
		通年	ピアノ①	4	通年	ピアノ②	4	通年	作曲Ⅱ①	2					
		通年	合唱①	2											
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
	選必	通年	ミュージックセオリー(初級)	2										2	
		通年	ミュージックセオリー(中級)	2										以上	
		通年	ミュージックセオリー(上級)	2											
		通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4	
	選択	通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低							4	
		通年	鍵盤ソルフェージュ①	2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	2							以上	
		通年	総合ソルフェージュ①	各2	通年	総合ソルフェージュ②	各2								
		通年	器楽Ⅱ①	各2	通年	器楽Ⅱ②	各2	通年	器楽Ⅱ③	各2	通年	器楽Ⅱ④	各2	制限なし	
		通年	声乐Ⅱ①	最低	通年	声乐Ⅱ②	最低	通年	声乐Ⅱ③	最低	通年	声乐Ⅱ④	最低		
		通年	電子オルガンⅡ①	4	通年	電子オルガンⅡ②	4	通年	電子オルガンⅡ③	4	通年	電子オルガンⅡ④	4		
通年		オルガンⅡ①	各2	通年	オルガンⅡ②	各2	通年	オルガンⅡ③	各2	通年	オルガンⅡ④	各2			
前期		日本古典芸能Ⅰ	1	通年	オペラの歴史と作品	4	前期	環境音楽論Ⅰ	2						
後期		日本古典芸能Ⅱ	1	通年	器楽の歴史と作品	4	通年	舞踊の歴史と作品	4						
				前期	演劇の歴史と作品	2									
			後期	ミュージカルの歴史と作品	2										
			前期	民族音楽概論Ⅰ	2										
			前期	日本音楽概論Ⅰ	2										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	哲学	2											
	前期	西洋文化史Ⅰ	2												
	前期	日本文化史Ⅰ	2												
	前期	音響学	2												
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	各学年において最低4単位					8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4								
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4								
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4								

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ピアノ演奏家 I コース 養成する人材像:ピアノ奏者、伴奏者、室内楽奏者、ピアノ指導者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ピアノ実技 I ①	9	通年	ピアノ実技 I ②	9	通年	ピアノ実技 I ③	9	通年	ピアノ実技 I ④	9	6 4	1 2 4 単位 以上
		通年	ピアノアンサンブル①	2	通年	ピアノアンサンブル②	2	通年	ピアノアンサンブル③	2	通年	ピアノアンサンブル④	2		
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	演奏解釈	4	通年	演奏会実習	2					
		通年	鍵盤音楽の歴史と作品	4				通年	海外研修 I	4					
		通年	西洋音楽史 I	4											
	選必	通年	鍵盤ソルフェージュ①	2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	2	通年	鍵盤ソルフェージュ③	2				4 以上	
		通年	総合ソルフェージュ①	2	通年	総合ソルフェージュ②	2	通年	総合ソルフェージュ③	2					
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ③	2					
	選択	通年	器楽 II ①	2	通年	器楽 II ②	2	通年	オルガン II ③	2	通年	オルガン II ④	2	制限 なし	
		通年	声楽 II ①	2	通年	声楽 II ②	2	通年	作曲 II ③	2	通年	作曲 II ④	2		
		通年	電子オルガン II ①	2	通年	電子オルガン II ②	2	通年	伴奏実習②	1	通年	伴奏実習③	1		
		通年	オルガン II ①	2	通年	オルガン II ②	2	通年	作曲・編曲法 I	2					
		通年	作曲 II ①	2	通年	作曲 II ②	2	通年	スコアリーディング II	2					
		通年	ポピュラー・ジャズピアノ II ①	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノ II ②	2	通年	音楽美学	4					
		通年	伴奏実習基礎	2	通年	伴奏実習①	1								
前期		楽器研究	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2									
通年		合唱①	2	後期	芸術文化と社会 II	2									
後期				後期	音楽心理学	2									
教養科目	必修	通年	芸術特別研究 I	1	通年	芸術特別研究 II	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	演奏とからだ I	2	前期	西洋文化史 I	2								
後期	演奏とからだ II	2	前期	日本文化史 I	2										
通年	音楽活動研究①	1	通年	音楽活動研究②	1										
外国語科目	選必	通年	基礎英語 I・II	各2									8 以上		
		通年	初級英語 I～V	各2											
		通年	中級英語 I～V	各2											
		通年	上級英語 I～V	各2											
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4	通年	中級イタリア語 I	2	通年	上級イタリア語		2	
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4	通年	中級イタリア語 II	2	通年	上級ドイツ語		2	
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4	通年	中級ドイツ語 I	2	通年	上級フランス語		2	
通年			通年			通年	中級ドイツ語 II	2							
通年			通年			通年	中級フランス語	2							

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ピアノ演奏家Ⅱコース 養成する人材像:ピアノ奏者、伴奏者、室内楽奏者、ピアノ指導者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ピアノ実技Ⅰ①	9	通年	ピアノ実技Ⅰ②	9	通年	ピアノ実技Ⅰ③	9	通年	ピアノ実技Ⅰ④	9	4 9	1 2 4 単位 以上
		通年	アンサンブルⅠ①	2							通年	卒業演奏	4		
		通年	演奏会実習Ⅰ	4											
		通年	演奏分析	2											
		通年	海外研修Ⅵ	1											
	選必	前期	楽式論Ⅰ	2										4 以上	
		後期	楽式論Ⅱ	2											
		通年	ポリフォニー演習	2											
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
	選択	通年	ピアノ実技Ⅱ①	6	通年	ピアノ実技Ⅱ②	6	通年	ピアノ実技Ⅱ③	6	通年	ピアノ実技Ⅱ④	6	制限 なし	
		通年	アンサンブルⅡ①	2	通年	アンサンブルⅠ②	2	通年	アンサンブルⅠ③	2	通年	アンサンブルⅠ④	2		
		通年	器楽Ⅱ①	2	通年	アンサンブルⅡ②	2	通年	アンサンブルⅡ③	2	通年	アンサンブルⅡ④	2		
		通年	声楽Ⅱ①	2	通年	器楽Ⅱ②	2	通年	オルガンⅡ③	2	通年	オルガンⅡ④	2		
		通年	電子オルガンⅡ①	2	通年	声楽Ⅱ②	2	通年	作曲Ⅱ③	2	通年	作曲Ⅱ④	2		
		通年	オルガンⅡ①	2	通年	電子オルガンⅡ②	2	通年	作曲Ⅱ③	2	通年	演奏会実習Ⅱ④	4		
		通年	作曲Ⅱ①	2	通年	オルガンⅡ②	2	通年	作曲・編曲法Ⅰ	2	通年				
		通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2	通年	作曲Ⅱ②	2	通年	作曲・編曲法Ⅰ	2	通年				
		通年	演奏会実習Ⅱ①	4	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	通年	スコアリーディングⅡ	2	通年				
		通年	演奏会実習Ⅲ	4	通年	演奏会実習Ⅱ②	4	通年	音楽美学	4	通年				
		通年	合唱①	2	通年	演奏会実習Ⅲ	4	通年	演奏会実習Ⅱ③	4	通年				
		通年	鍵盤音楽の歴史と作品	4	後期	芸術文化と社会Ⅱ	2	通年	鍵盤ソルフェージュ③	2	通年				
		前期	楽器研究	2	通年	海外研修Ⅹ	1	通年	総合ソルフェージュ③	2	通年				
		通年	鍵盤ソルフェージュ①	2	前期	民族音楽概論Ⅰ	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ③	2	通年				
		通年	総合ソルフェージュ①	2	後期	民族音楽概論Ⅱ	2	通年	海外研修ⅩⅢ	2	通年				
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	総合ソルフェージュ②	2								
		通年			通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	2								
		教養科目	必修	通年	基礎ゼミ	2									
選択			前期	演奏とからだⅠ	2	前期	西洋文化史Ⅰ	2							
			後期	演奏とからだⅡ	2	前期	日本文化史Ⅰ	2							
			通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1							
外国語科目		選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2										8 以上
	通年		初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2											
	通年		中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2											
	通年		上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2											
	通年		基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4	通年	中級イタリア語Ⅰ	2	通年	上級イタリア語	2		
	通年		基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4	通年	中級イタリア語Ⅱ	2	通年	上級ドイツ語	2		
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4	通年	中級ドイツ語Ⅰ	2	通年	上級フランス語	2		
		通年			通年			通年	中級ドイツ語Ⅱ	2	通年				
		通年			通年			通年	中級フランス語	2	通年				

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ピアノ指導者コース 養成する人材像:ピアノ指導者、ピアノ奏者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ピアノⅠ①	6	通年	ピアノⅠ②	6	通年	ピアノⅠ③	6	通年	ピアノⅠ④	6	60	124単位以上
		通年	伴奏法Ⅰ①	2	前期	児童心理	2	半期	指導教材研究	2	通年	インターンシップ	2		
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	指導者基礎Ⅱ	2	通年	ピアノ指導法研究	4	通年	卒業論文	4		
		通年	指導者基礎Ⅰ	2				通年	ピアノ指導法特論	4					
		通年	鍵盤音楽の歴史と作品	4											
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
		通年	リトミック①	2											
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	2	通年	基本ソルフェージュ②	2	通年	基本ソルフェージュ③	2				4以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ③	2					
		通年	鍵盤ソルフェージュ①	2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	2	通年	鍵盤ソルフェージュ③	2					
		通年	総合ソルフェージュ①	2	通年	総合ソルフェージュ②	2	通年	総合ソルフェージュ③	2					
	選択	通年	器楽Ⅱ①	2	通年	器楽Ⅱ②	2	通年	声楽Ⅱ③	2	通年	声楽Ⅱ④	2	制限なし	
		通年	声楽Ⅱ①	2	通年	声楽Ⅱ②	2	通年	電子オルガンⅡ③	2	通年	電子オルガンⅡ④	2		
		通年	電子オルガンⅡ①	2	通年	電子オルガンⅡ②	2	通年	オルガンⅡ③	2	通年	オルガンⅡ④	2		
通年		オルガンⅡ①	2	通年	オルガンⅡ②	2	通年	作曲Ⅱ③	2	通年	作曲Ⅱ④	2			
通年		作曲Ⅱ①	2	通年	作曲Ⅱ②	2	通年	伴奏実習②	1	通年	音楽美学	4			
通年		伴奏実習基礎	2	通年	伴奏実習①	1	通年	作曲・編曲法Ⅰ	2	前期	日本古典芸能Ⅰ	1			
通年		合唱①	2	通年	コンピューター音楽概論	4	通年	合奏Ⅱ	2	後期	日本古典芸能Ⅱ	1			
前期		楽器研究	2	後期	芸術文化と社会Ⅱ	2	通年	指揮法Ⅰ	2						
				後期	芸術関係法規	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅱ	2						
				通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2	通年	合唱指導法演習	2						
				通年	ハーモニー演習②	2									
教養科目		必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1							12以上
	前期		基礎ゼミ	2											
	後期	演奏とからだⅠ	2	前期	西洋文化史Ⅰ	2									
	半期	演奏とからだⅡ	2	前期	日本文化史Ⅰ	2									
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2									8以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2											
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2											
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2											
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4	通年	中級イタリア語Ⅰ	2	通年	上級イタリア語		2	
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4	通年	中級イタリア語Ⅱ	2	通年	上級ドイツ語		2	
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4	通年	中級ドイツ語Ⅰ	2	通年	上級フランス語		2	

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ピアノミュージッククリエイターコース 養成する人材像:ピアノ奏者、ピアノ指導者、メディアを駆使した音楽創作者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件	
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位			
専門科目	必修	通年	ピアノⅠ①	6	通年	ピアノⅠ②	6	通年	ピアノⅠ③	6	通年	ピアノⅠ④	6	4 6	1 2 4 単位以上	
		通年	メディア創作演習①	2	通年	メディア創作演習②	2	通年	メディア創作演習③	2	通年	メディア創作演習④	2			
		通年	鍵盤音楽の歴史と作品	4				通年	ピアノ指導法特論	4						
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4												
		通年	伴奏法Ⅰ①	2												
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	2	通年	基本ソルフェージュ②	2	通年	基本ソルフェージュ③	2						4 以上
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ③	2						
		通年	鍵盤ソルフェージュ①	2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	2	通年	鍵盤ソルフェージュ③	2						
		通年	総合ソルフェージュ①	2	通年	総合ソルフェージュ②	2	通年	総合ソルフェージュ③	2						
	選択	通年	器楽Ⅱ①	2	通年	器楽Ⅱ②	2	通年	器楽Ⅱ③	2	通年	器楽Ⅱ④	2	制限なし		
		通年	声楽Ⅱ①	2	通年	声楽Ⅱ②	2	通年	声楽Ⅱ③	2	通年	声楽Ⅱ④	2			
		通年	電子オルガンⅡ①	2	通年	電子オルガンⅡ②	2	通年	オルガンⅡ③	2	通年	オルガンⅡ④	2			
		通年	オルガンⅡ①	2	通年	オルガンⅡ②	2	通年	作曲Ⅱ③	2	通年	作曲Ⅱ④	2			
		通年	作曲Ⅱ①	2	通年	作曲Ⅱ②	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ③	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ④	2			
		通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	通年	指揮法Ⅰ	2	通年	伴奏実習③	1			
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅱ	2	通年	音楽美学	4			
		通年	合唱①	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2	通年	伴奏実習②	1						
		前期	楽器研究	2	通年	伴奏実習①	1	通年	室内楽Ⅱ①	2						
		前期	日本古典芸能Ⅰ	1	後期	芸術文化と社会Ⅱ	2	通年	スコアリーディングⅡ	2						
		後期	日本古典芸能Ⅱ	1	前期	民族音楽概論Ⅰ	2	通年	ポリフォニー演習	2						
				前期	日本音楽概論Ⅰ	2	後期	ステージマネージャー演習②	1							
				通年	コンピューター音楽概論	4										
				後期	ステージマネージャー演習①	1										
				後期	音楽心理学	2										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上			
		通年	基礎ゼミ	2												
	選択	前期	演奏とからだⅠ	2	前期	西洋文化史Ⅰ	2	半期	日本国憲法	2						
	後期	演奏とからだⅡ	2	前期	日本文化史Ⅰ	2										
	通年	音楽活動研究①	1	通年	音楽活動研究②	1										
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2									8 以上			
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2												
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2												
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2												
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4	通年	中級イタリア語Ⅰ	2	通年	上級イタリア語		2		
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4	通年	中級イタリア語Ⅱ	2	通年	上級ドイツ語		2		
	通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4	通年	中級ドイツ語Ⅰ	2	通年	上級フランス語	2				
	通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4	通年	中級ドイツ語Ⅱ	2	通年	上級フランス語	2				
	通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4	通年	中級フランス語	2	通年	上級フランス語	2				

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

オルガンコース 養成する人材像:オルガン演奏者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	オルガンⅠ①	6	通年	オルガンⅠ②	6	通年	オルガンⅠ③	6	通年	オルガンⅠ④	6	40	124 単位以上
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
		通年	鍵盤音楽の歴史とその作品	4											
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低2								
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
	選択	通年	伴奏法Ⅰ①	2	通年	伴奏法Ⅰ②	2	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2	制限なし	
		通年	声楽Ⅱ①	2	通年	声楽Ⅱ②	2	通年	ハーモニー演習③	2	通年	ポリフォニー演習	2		
		通年	電子オルガンⅡ①	2	通年	電子オルガンⅡ②	2	通年	スコアリーディングⅡ	2	通年	作曲・編曲法Ⅰ	2		
通年		合唱①	2	通年	合唱②	2	通年	合奏Ⅱ	2	後期	ステージマネージャー演習①	1			
通年		鍵盤演奏表現Ⅰ	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2	通年	指揮法Ⅰ	2	通年	舞台芸術概論	4			
前期		楽器研究	2	前期	楽式論Ⅰ	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅱ	2						
				後期	楽式論Ⅱ	2	通年	管弦楽概論	4						
				通年	器楽の歴史と作品	4	通年	舞台芸術概論	4						
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						12以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	半期	情報機器演習(基礎)	2	半期	情報機器演習(応用)Ⅰ	2	通年	音楽活動研究①	1	前期	音響学		2	
	前期	演奏とからだⅠ	2	前期	美術史Ⅰ	2									
	後期	演奏とからだⅡ	2	後期	美術史Ⅱ	2									
外国語科目	選必	通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4						8以上		

オルガンコース 養成する人材像:オルガン指導者等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	オルガンⅠ①	6	通年	オルガンⅠ②	6	通年	オルガンⅠ③	6	通年	オルガンⅠ④	6	40	124 単位以上
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
		通年	鍵盤音楽の歴史とその作品	4											
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低2								
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
	選択	通年	伴奏法Ⅰ①	2	通年	伴奏法Ⅰ②	2	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2	制限なし	
		通年	声楽Ⅱ①	2	通年	声楽Ⅱ②	2	通年	作曲Ⅱ①	2	通年	作曲Ⅱ②	2		
		通年	電子オルガンⅡ①	2	通年	電子オルガンⅡ②	2	通年	ハーモニー演習③	2	通年	ポリフォニー演習	2		
通年		合唱①	2	通年	合唱②	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅱ	2	後期	ステージマネージャー演習①	1			
通年		鍵盤演奏表現Ⅰ	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2	後期	芸術文化と社会Ⅱ	2	通年	舞台芸術概論	4			
前期		楽器研究	2	前期	楽式論Ⅰ	2	通年	音楽情報論	4						
				後期	楽式論Ⅱ	2	通年	コンピューター音楽概論	4						
				通年	管弦楽概論	4	前期	ミュージックビジネスと社会	2						
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						12以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	半期	情報機器演習(基礎)	2	半期	情報機器演習(応用)Ⅰ	2	前期	音響学	2					
	前期	演奏とからだⅠ	2	前期	美術史Ⅰ	2									
	後期	演奏とからだⅡ	2	後期	美術史Ⅱ	2									
外国語科目	選必	通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4						8以上		

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

電子オルガンコース 養成する人材像:クラシック音楽系の演奏者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	電子オルガンⅠ①	6	通年	電子オルガンⅠ②	6	通年	電子オルガンⅠ③	6	通年	電子オルガンⅠ④	6	5 4	1 2 4 単位以上
		通年	電子オルガンアンサンブル①	2	通年	電子オルガンアンサンブル②	2	通年	電子オルガンアンサンブル③	2	通年	電子オルガンアンサンブル④	2		
		通年	電子オルガン演習①	2	通年	電子オルガン演習②	2	通年	電子オルガン演習③	2	通年	電子オルガン演習④	2		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4	前期	電子楽器研究	2								
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低2								
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
	選択	通年	声楽Ⅱ①	2	通年	声楽Ⅱ②	2	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2	制限なし	
		通年	器楽Ⅱ①	2	通年	器楽Ⅱ②	2	通年	合奏Ⅳ②	2	通年	合奏Ⅳ③	2		
		通年	合唱①	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅳ	2	通年	作曲Ⅱ①	2	通年	作曲Ⅱ②	2		
		通年	鍵盤音楽の歴史と作品	4	通年	合奏Ⅳ①	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅱ	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2		
通年				通年	管弦楽概論	4	通年	コンピューター音楽概論	4						
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	半期	情報機器演習(基礎)	2	半期	情報機器演習(応用)Ⅰ	2	通年	音楽活動研究①	1	前期	音響学		2	
	前期	演奏とからだⅠ	2	前期	美術史Ⅰ	2									
	後期	演奏とからだⅡ	2	後期	美術史Ⅱ	2									
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

電子オルガンコース 養成する人材像:ポピュラー音楽系の演奏者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	電子オルガンⅠ①	6	通年	電子オルガンⅠ②	6	通年	電子オルガンⅠ③	6	通年	電子オルガンⅠ④	6	5 4	1 2 4 単位以上
		通年	電子オルガンアンサンブル①	2	通年	電子オルガンアンサンブル②	2	通年	電子オルガンアンサンブル③	2	通年	電子オルガンアンサンブル④	2		
		通年	電子オルガン演習①	2	通年	電子オルガン演習②	2	通年	電子オルガン演習③	2	通年	電子オルガン演習④	2		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4	前期	電子楽器研究	2								
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低2								
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
	選択	通年	声楽Ⅱ①	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	後期	ステージマネージャー演習①	1	制限 なし	
		通年	インストゥルメンツⅡ①(ドラム)	2	通年	インストゥルメンツⅡ②(ドラム)	2	通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4	通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2		
		通年	ポピュラー音楽概論	4	通年	鍵盤演奏表現Ⅳ	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅱ	2	通年	作曲Ⅱ②	2		
前期		ジャズの歴史と作品	2	通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	コンピューター音楽概論	4	通年	舞台芸術概論	4			
				後期	ミュージカルの歴史と作品	2	前期	ミュージックビジネスと社会	2	後期	ライブビジネスと社会	2			
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	半期	情報機器演習(基礎)	2	半期	情報機器演習(応用)Ⅰ	2	前期	音響学	2	通年	音楽活動研究②		1	
	前期	演奏とからだⅠ	2	前期	美術史Ⅰ	2	通年	音楽活動研究①	1						
	後期	演奏とからだⅡ	2												
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

電子オルガンコース 養成する人材像:指導者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	電子オルガンⅠ①	6	通年	電子オルガンⅠ②	6	通年	電子オルガンⅠ③	6	通年	電子オルガンⅠ④	6	5 4	1 2 4 単位以上
		通年	電子オルガンアンサンブル①	2	通年	電子オルガンアンサンブル②	2	通年	電子オルガンアンサンブル③	2	通年	電子オルガンアンサンブル④	2		
		通年	電子オルガン演習①	2	通年	電子オルガン演習②	2	通年	電子オルガン演習③	2	通年	電子オルガン演習④	2		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4	前期	電子楽器研究	2								
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2 最低2	通年	基本ソルフェージュ②	各2 最低2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①		通年	聴音・視唱ソルフェージュ②									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
	選択	通年	声楽Ⅱ①	2 2 2 4 2 2	通年	声楽Ⅱ②	2 2 2 4 2 4	通年	ピアノⅡ③	2 2 4 2 2	通年	ピアノⅡ④	2 2	制限なし	
		通年	合唱①		通年	合唱②		通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②		通年	鍵盤演奏表現Ⅲ			
		通年	インストゥルメンツⅡ①(ドラム)		通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①		通年	ポピュラー作曲・編曲法②						
		通年	ポピュラー音楽概論		通年	ポピュラー作曲・編曲法①		通年	指揮法Ⅰ						
		前期	楽器研究		通年	鍵盤演奏表現Ⅳ		通年	伴奏法Ⅱ						
前期		楽器研究	通年		舞台芸術概論	4									
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1					1 2 以上			
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	半期 前期 後期	情報機器演習(基礎) 演奏とからだⅠ 演奏とからだⅡ	2 2 2	半期 後期	情報機器演習(応用)Ⅰ 心の健康	2 2	通年	音楽活動研究①	1	通年		音楽活動研究②	1	
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

電子オルガンコース 養成する人材像:クラシック音楽系の制作者等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	電子オルガンⅠ①	6	通年	電子オルガンⅠ②	6	通年	電子オルガンⅠ③	6	通年	電子オルガンⅠ④	6	5 4	1 2 4 単位以上
		通年	電子オルガンアンサンブル①	2	通年	電子オルガンアンサンブル②	2	通年	電子オルガンアンサンブル③	2	通年	電子オルガンアンサンブル④	2		
		通年	電子オルガン演習①	2	通年	電子オルガン演習②	2	通年	電子オルガン演習③	2	通年	電子オルガン演習④	2		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4	前期	電子楽器研究	2								
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2 最低2	通年	基本ソルフェージュ②	各2 最低2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①		通年	聴音・視唱ソルフェージュ②									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
	選択	通年	声楽Ⅱ①	2 2 2 4 2 2	通年	声楽Ⅱ②	2 2 2 4 4 2	通年	ピアノⅡ③	2 2 2 2 1 2	通年	ピアノⅡ④	2 4 2 1	制限なし	
		通年	作曲Ⅱ①		通年	作曲Ⅱ②		通年	ハーモニー演習③		通年	ポピュラー作曲・編曲法①			
		前期	楽器研究		通年	鍵盤演奏表現Ⅲ		通年	作曲Ⅱ①		通年	作曲Ⅱ②			
		通年	鍵盤音楽の歴史と作品		通年	管弦楽概論		通年	ポリフォニー演習		後期	ステージマネージャー演習②			
		前期	アートマネジメント概論Ⅰ		通年	コンピューター音楽概論		後期	ステージマネージャー演習①		1				
後期		アートマネジメント概論Ⅱ	前期		ミュージックビジネスと社会	通年		鍵盤演奏表現Ⅲ	2						
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1					1 2 以上			
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	半期	情報機器演習(基礎)	2	半期	情報機器演習(応用)Ⅰ	2								
	前期	演奏とからだⅠ	2	前期	音響学	2									
	後期	演奏とからだⅡ	2												
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

電子オルガンコース 養成する人材像:ポピュラー音楽系の制作者等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	電子オルガンⅠ①	6	通年	電子オルガンⅠ②	6	通年	電子オルガンⅠ③	6	通年	電子オルガンⅠ④	6	5 4	1 2 4 単位以上
		通年	電子オルガンアンサンブル①	2	通年	電子オルガンアンサンブル②	2	通年	電子オルガンアンサンブル③	2	通年	電子オルガンアンサンブル④	2		
		通年	電子オルガン演習①	2	通年	電子オルガン演習②	2	通年	電子オルガン演習③	2	通年	電子オルガン演習④	2		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4	前期	電子楽器研究	2								
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低2								
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
	選択	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2	制限 なし	
		通年	インストゥルメンツⅡ①(ドラム)	2	通年	インストゥルメンツⅡ②(ドラム)	2	通年	鍵盤演奏表現Ⅲ	2	通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4		
通年		ポピュラー音楽概論	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	舞台芸術概論	4			
前期		ミュージックビジネスと社会	2	後期	ミュージカルの歴史と作品	2	通年	ポリフォニー演習	2	後期	ライブビジネスと社会	2			
前期		アートマネジメント概論Ⅰ	2	通年	コンピューター音楽概論	4	後期	ステージマネージャー演習②	1						
後期		アートマネジメント概論Ⅱ	2	後期	ステージマネージャー演習①	1									
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	半期	情報機器演習(基礎)	2	半期	情報機器演習(応用)Ⅰ	2								
	前期	演奏とからだⅠ	2	前期	音響学	2									
	後期	演奏とからだⅡ	2												
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

弦・管・打楽器コース 養成する人材像:演奏家(演奏団体奏者)

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	器楽Ⅰ①	6	通年	器楽Ⅰ②	6	通年	器楽Ⅰ③	6	通年	器楽Ⅰ④	6	5 2	1 2 4 単位以上
		通年	合奏Ⅰ①	4	通年	合奏Ⅰ②	4	通年	合奏Ⅰ③	4	通年	合奏Ⅰ④	4		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	器楽の歴史と作品	4								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
		通年	ハーモニー演習①	2											
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低2								
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
		前期	楽器研究	2	通年	室内楽Ⅰ①	2	通年	室内楽Ⅰ②	2	通年	室内楽Ⅱ①	2		
通年	ヴァイオリンステップアップ①	2	通年	ハーモニー演習②	2	通年	ヴァイオリンステップアップ③	2	通年	ヴァイオリンステップアップ④	2				
通年	声楽Ⅱ①	2	半期	西洋音楽史Ⅱ	2	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2				
通年	合唱①	2	通年	ヴァイオリンステップアップ②	2	通年	合奏Ⅲ③	2	通年	合奏Ⅲ④	2				
通年	合奏Ⅲ①	2	通年	ピアノⅡ②	2	通年	管弦楽概論	4	通年	インストゥルメンツⅡ②	2				
通年	器楽Ⅱ①	2	通年	声楽Ⅱ②	2	通年	指揮法Ⅰ	2	通年	器楽Ⅱ④	2				
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	演奏とからだⅠ	2	通年	音楽活動研究②	1	通年	音楽活動研究③	1	通年	音楽活動研究④		1	
		後期	演奏とからだⅡ	2											
		通年	音楽活動研究①	1											
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4								
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4								
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4								

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

弦・管・打楽器コース 養成する人材像:音楽教室講師等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	器楽Ⅰ①	6	通年	器楽Ⅰ②	6	通年	器楽Ⅰ③	6	通年	器楽Ⅰ④	6	5 2	1 2 4 単位以上
		通年	合奏Ⅰ①	4	通年	合奏Ⅰ②	4	通年	合奏Ⅰ③	4	通年	合奏Ⅰ④	4		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	器楽の歴史と作品	4								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
		通年	ハーモニー演習①	2											
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2 最低2	通年	基本ソルフェージュ②	各2 最低2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①		通年	聴音・視唱ソルフェージュ②									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
選択	前期	楽器研究	2	通年	室内楽Ⅰ①	2	通年	室内楽Ⅰ②	2	通年	室内楽Ⅱ①	2	制限なし		
	通年	声楽Ⅱ①		通年	ハーモニー演習②		通年	ピアノⅡ③		通年	ピアノⅡ④				
	通年	電子オルガンⅡ①		半期	西洋音楽史Ⅱ		通年	合奏Ⅲ③		通年	合奏Ⅲ④				
	通年	合唱①		通年	ピアノⅡ②		通年	管弦楽概論		通年	作曲・編曲法Ⅱ				
	通年	合奏Ⅲ①		通年	声楽Ⅱ②		通年	指揮法Ⅰ		通年	スコアリーディングⅡ				
	通年	リトミック①		通年	電子オルガンⅡ②		通年	作曲・編曲法Ⅰ		通年					
				通年	合唱②		通年	音楽美学		前期	経営学Ⅱ				
				通年	合奏Ⅲ②		通年	伴奏法Ⅱ							
				通年	ハーモニー演習②		前期								
				通年	リトミック②										
				前期	経営学Ⅰ										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1					1 2 以上			
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	演奏とからだⅠ	2	通年	音楽活動研究②	1								
後期	演奏とからだⅡ	2													
通年	音楽活動研究①	1													
後期	経済学	2													
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2					8 以上			
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	基礎イタリア語		通年	初級イタリア語									
		通年	基礎ドイツ語		通年	初級ドイツ語									
		通年	基礎フランス語		通年	初級フランス語									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ウインドシンフォニーコース 養成する人材像:吹奏楽指導者等

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	器楽Ⅰ①	6	通年	器楽Ⅰ②	6	通年	器楽Ⅰ③	6	通年	器楽Ⅰ④	6	6 0	1 2 4 単位以上
		通年	合奏Ⅰ①	4	通年	合奏Ⅰ②	4	通年	合奏Ⅰ③	4	通年	合奏Ⅰ④	4		
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	器楽の歴史と作品	4	通年	指揮法Ⅱ①	2	通年	指揮法Ⅱ②	2		
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4				通年	作曲・編曲法Ⅰ	2	通年	作曲・編曲法Ⅱ	2		
		通年	ハーモニー演習①	2											
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	基本ソルフェージュ②	各2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	最低2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	最低2								
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
		前期	楽器研究	2	通年	室内楽Ⅰ①	2	通年	室内楽Ⅰ②	2	通年	指揮演習②	2		
選択	通年	声楽Ⅱ①	2	通年	ハーモニー演習②	2	通年	指揮法Ⅰ	2	通年	ピアノⅡ④	2	制限なし		
	通年	合唱①	2	半年期	西洋音楽史Ⅱ	2	通年	スコアリーディングⅡ	2	通年	ポリフォニー演習	2			
	通年	合奏Ⅲ①	2	通年	ピアノⅡ②	2	通年	指揮演習①	2						
				通年	声楽Ⅱ②	2	通年	ピアノⅡ③	2						
				通年	合唱②	2	通年	ハーモニー演習③	2						
				通年	合奏Ⅲ②	2	前期	楽式論Ⅰ	2						
				通年	ハーモニー演習②	2	後期	楽式論Ⅱ	2						
				通年	管弦楽概論	4									
	教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1							1 2 以上
			通年	基礎ゼミ	2										
選択		通年	音楽活動研究①	1	通年	音楽活動研究②	1	通年	音楽活動研究③	1	通年	音楽活動研究④	1		
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2								
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4								
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4								
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4								

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

弦・管・打楽器演奏家 I コース 養成する人材像:演奏家(演奏団体奏者・ソリスト)

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	器楽実技 I ①	6	通年	器楽実技 I ②	6	通年	器楽実技 I ③	6	通年	器楽実技 I ④	6	6 0	1 2 4 単位 以上
		通年	合奏 I ①	4	通年	合奏 I ②	4	通年	合奏 I ③	4	通年	合奏 I ④	4		
		通年	ピアノ II ①	2	通年	器楽の歴史と作品	4	通年	室内楽 II ①	2	通年	室内楽 II ②	2		
		通年	ハーモニー演習①	2							通年	演奏会実習	2		
		通年	西洋音楽史 I	4						通年	コンチェルト実習	2			
	選必	通年	基本ソルフェージュ①	各2 最低2	通年	基本ソルフェージュ②	各2 最低2							4 以上	
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①		通年	聴音・視唱ソルフェージュ②									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①		通年	鍵盤ソルフェージュ②									
		通年	総合ソルフェージュ①		通年	総合ソルフェージュ②									
選択	通年	器楽実技 II ①	3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	通年	器楽実技 II ②	3 2 2 2 2 2 2 2 2 2	通年	器楽実技 II ③	3 2 2 2 2 2	通年	器楽実技 II ④	3 2 2 2 2	制限 なし		
	通年	室内楽 I ①		通年	室内楽 I ②		通年	インストゥルメンツ II ①		通年	インストゥルメンツ II ②				
	前期	楽器研究		通年	ハーモニー演習②		通年	合奏 III ③		通年	合奏 III ④				
	通年	ヴァイオリンステップアップ①		半期	西洋音楽史 II		通年	ポリフォニー演習		通年	ヴァイオリンステップアップ④				
	通年	声楽 II ①		通年	ヴァイオリンステップアップ②		通年	ヴァイオリンステップアップ③							
	通年	合唱①		通年	ピアノ II ②										
	通年	合奏 III ①		通年	声楽 II ②										
				通年	合唱②										
				通年	合奏 III ②										
				通年	ハーモニー演習②										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究 I	1 2	通年	芸術特別研究 II	1					1 2 以上			
		通年	基礎ゼミ												
	選択	通年	音楽活動研究①	1 2 2	通年	音楽活動研究②	1	通年	音楽活動研究③	1	通年	音楽活動研究④	1		
前期	演奏とからだ I														
後期	演奏とからだ II														
外国語科目	選必	通年	基礎英語 I・II	各2 各2 各2 各2 4 4 4	通年	基礎英語 I・II	各2 各2 各2 各2 4 4 4					8 以上			
		通年	初級英語 I～V		通年	初級英語 I～V									
		通年	中級英語 I～V		通年	中級英語 I～V									
		通年	上級英語 I～V		通年	上級英語 I～V									
		通年	基礎イタリア語		通年	初級イタリア語									
		通年	基礎ドイツ語		通年	初級ドイツ語									
		通年	基礎フランス語		通年	初級フランス語									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

弦・管・打楽器演奏家Ⅱコース 養成する人材像:演奏家(ソリスト)

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件	
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位			
専門科目	必修	通年	器楽実技Ⅰ①	6	通年	器楽実技Ⅰ②	6	通年	器楽実技Ⅰ③	6	通年	器楽実技Ⅰ④	6	5 4	1 2 4 単位以上	
		通年	合奏Ⅰ①	4	通年	合奏Ⅰ②	4	通年	合奏Ⅰ③	4	通年	合奏Ⅰ④	4			
		通年	室内楽実習Ⅰ①	2	通年	演奏会実習Ⅰ①	2				通年	演奏会実習Ⅰ②	2			
		通年	海外研修Ⅰ	4	通年	室内楽実習Ⅰ②	2				通年	コンチェルト実習Ⅰ	2			
	選必	通年	ピアノⅡ①	2	通年	器楽の歴史と作品	4									1 2 以上
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	基本ソルフェージュ②	各2									
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	1科目									
		通年	基本ソルフェージュ①	各2	通年	鍵盤ソルフェージュ②	各2	1科目 選択								
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	1科目	通年	総合ソルフェージュ②	各2									
		通年	鍵盤ソルフェージュ①	各2												
	通年	総合ソルフェージュ①	1科目													
	選択	通年	器楽実技Ⅱ①	3	通年	器楽実技Ⅱ②	3	通年	器楽実技Ⅱ③	3	通年	器楽実技Ⅱ④	3	制 限 な し		
		通年	器楽実技Ⅲ①	6	通年	器楽実技Ⅲ②	6	通年	器楽実技Ⅲ③	6	通年	器楽実技Ⅲ④	6			
通年		演奏会実習Ⅱ①	4	通年	演奏会実習Ⅱ②	4	通年	演奏会実習Ⅱ③	4	通年	室内楽実習Ⅰ④	2				
通年		合奏Ⅲ①	2	通年	コンチェルト実習Ⅱ	2	通年	室内楽実習Ⅰ③	2	通年	演奏会実習Ⅱ④	4				
教養科目	必修	通年	基礎ゼミ	2									1 2 以上			
	選択	通年	音楽活動研究①	1	前期	演奏とからだⅠ	2	通年	音楽活動研究③	1	通年	音楽活動研究④		1		
					後期	演奏とからだⅡ	2	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						
					通年	音楽活動研究②	1									
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上			
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2	通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ	各2									
		通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4									
		通年	基礎ドイツ語	4	通年	初級ドイツ語	4									
		通年	基礎フランス語	4	通年	初級フランス語	4									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ジャズコース 養成する人材像:ジャズ演奏家

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ジャズ実技Ⅰ①	6	通年	ジャズ実技Ⅰ②	6	通年	ジャズ実技Ⅰ③	6	通年	ジャズ実技Ⅰ④	6	56	1 2 4 単位以上
		通年	ジャズ演奏法①	2	通年	ジャズ演奏法②	2	通年	ジャズ演奏法③	2	通年	ジャズ演奏法④	2		
		通年	ジャズアンサンブルⅠ①	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ②	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ③	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ④	2		
		通年	ジャズアンサンブルⅡ①	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ②	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ③	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ④	2		
		前期	ジャズの歴史と作品	2	通年	ポピュラー音楽概論	4				通年	卒業ライブ	1		
		半期	リズムトレーニング	1											
	選必	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	各2 最低2										2以上	
		通年	インストゥルメンツⅡ①												
		通年	ポピュラーヴォーカルⅡ①	2										4以上	
		通年	器楽Ⅱ①		通年	コードプロGRESSION(アドバンス)	4								
		通年	コードプロGRESSION(ベーシック)		4	集中	スタジオレコーディング①	1	集中	スタジオレコーディング②	1			4以上	
	選択				集中	ライブ実習Ⅰ①	1	集中	ライブ実習Ⅰ②	1				4以上	
					集中	ライブ実習Ⅱ①	1	集中	ライブ実習Ⅱ②	1				4以上	
		半期	イヤートレーニング	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	通年	器楽Ⅱ③	2	通年	器楽Ⅱ④	2	制限なし	
		通年	ダンス	2	通年	インストゥルメンツⅡ②	2	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2		
通年		ピアノⅡ①	2	通年	ポピュラーヴォーカルⅡ②	2	通年	声楽Ⅱ③	2	通年	声楽Ⅱ④	2			
通年		声楽Ⅱ①	2	通年	器楽Ⅱ②	2	前期	ミュージックビジネスと社会	2	後期	ライブビジネスと社会	2			
				通年	ピアノⅡ②	2				後期	芸術関係法規	2			
			通年	声楽Ⅱ②	2										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1		
		通年	基礎ゼミ	2									2		
選択	前期	演奏とからだⅠ	2	後期	演奏とからだⅡ	2							2		
	前期	生活と経済	2										2		
	半期	情報機器演習(基礎)	2										2		
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4							8以上	
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: 外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ジャズコース 養成する人材像:ジャズ・コンポーザー

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件	
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位			
専門科目	必修	通年	ジャズ実技Ⅰ①	6	通年	ジャズ実技Ⅰ②	6	通年	ジャズ実技Ⅰ③	6	通年	ジャズ実技Ⅰ④	6	56	1 2 4 単位以上	
		通年	ジャズ演奏法①	2	通年	ジャズ演奏法②	2	通年	ジャズ演奏法③	2	通年	ジャズ演奏法④	2			
		通年	ジャズアンサンブルⅠ①	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ②	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ③	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ④	2			
		通年	ジャズアンサンブルⅡ①	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ②	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ③	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ④	2			
		前期	ジャズの歴史と作品	2	通年	ポピュラー音楽概論	4				集中	卒業ライブ	1			
		半期	リズムトレーニング	1												
	選必	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	各2										2 以上		
		通年	インストゥルメントⅡ①	最低2												
		通年	ポピュラーヴォーカルⅡ①													
		通年	器楽Ⅱ①	2												
		通年	コードプロGRESSION(ベーシック)	4	通年	コードプロGRESSION(アドバンス)	4									4以上
	選択				集中	スタジオレコーディング①	1	集中	スタジオレコーディング②	1				4 4 以上		
					集中	ライブ実習Ⅰ①	1	集中	ライブ実習Ⅰ②	1						
					集中	ライブ実習Ⅱ①	1	集中	ライブ実習Ⅱ②	1						
		通年	ソングライティング演習①	2	通年	ソングライティング演習②	2	通年	ジャズコンポジション①	4	通年	ジャズコンポジション②	4			制限なし
		通年	サウンドクリエイト①	4	通年	サウンドクリエイト②	4	通年	ハーモニー演習③	2	後期	ライブビジネスと社会	2			
		半期	イヤートレーニング	2	通年	ハーモニー演習②	2	前期	ミュージックビジネスと社会	2	後期	芸術関係法規	2			
	前期	舞台スタッフ論①	2	後期	舞台スタッフ論②	2										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上			
		通年	基礎ゼミ	2												
	選択	前期	演奏とからだⅠ	2	後期	演奏とからだⅡ	2									
前期		生活と経済	2													
	半期	情報機器演習(基礎)	2													
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上			
通年		初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4										
通年		中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ											
通年		上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ											

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: 外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ジャズコース 養成する人材像:ジャズ・インストラクター

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ジャズ実技Ⅰ①	6	通年	ジャズ実技Ⅰ②	6	通年	ジャズ実技Ⅰ③	6	通年	ジャズ実技Ⅰ④	6	56	1 2 4 単位以上
		通年	ジャズ演奏法①	2	通年	ジャズ演奏法②	2	通年	ジャズ演奏法③	2	通年	ジャズ演奏法④	2		
		通年	ジャズアンサンブルⅠ①	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ②	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ③	2	通年	ジャズアンサンブルⅠ④	2		
		通年	ジャズアンサンブルⅡ①	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ②	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ③	2	通年	ジャズアンサンブルⅡ④	2		
		前期	ジャズの歴史と作品	2	通年	ポピュラー音楽概論	4				通年	卒業ライブ	1		
		半期	リズムトレーニング	1											
	選必	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	各2 最低2										2 以上	
		通年	インストゥルメントⅡ①												
		通年	ポピュラーヴォーカルⅡ①	2											
		通年	器楽Ⅱ①	4	通年	コードプロGRESSION(アドバンス)	4							4以上	
	選択				集中	スタジオレコーディング①	1	集中	スタジオレコーディング②	1				4	
					集中	ライブ実習Ⅰ①	1	集中	ライブ実習Ⅰ②	1				4 以上	
					集中	ライブ実習Ⅱ①	1	集中	ライブ実習Ⅱ②	1					
		通年	ソングライティング演習①	2	通年	ソングライティング演習②	2	通年	ジャズコンポジション①	4	通年	ジャズコンポジション②	4	制限 なし	
		通年	サウンドクリエイト①	4	通年	サウンドクリエイト②	4	通年	ハーモニー演習③	2	通年	ピアノⅡ④	2		
半期		イヤートレーニング	2	通年	ハーモニー演習②	2	通年	ピアノⅡ③	2	後期	芸術関係法規	2			
通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	演奏とからだⅠ	2	後期	演奏とからだⅡ	2								
		前期	生活と経済	2	半期	情報機器演習(基礎)	2								
	後期	文学	2	後期	心の健康	2									
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									
	選択	通年	基礎イタリア語	4	通年	基礎ドイツ語	4	通年	基礎フランス語	4			制限 なし		

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: 外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ポピュラー音楽コース 養成する人材像:ポピュラー音楽の演奏家

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ポピュラー実技Ⅰ①	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ②	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ③	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ④	6	54	1 2 4 単位以上
		通年	ポピュラー演奏法①	2	通年	ポピュラー演奏法②	2	通年	ポピュラー演奏法③	2	通年	ポピュラー演奏法④	2		
		通年	ポピュラーアンサンブル①	2	通年	ポピュラーアンサンブル②	2	通年	ポピュラーアンサンブル③	4	通年	ポピュラーアンサンブル④	4		
		通年	サウンドクリエイト①	4	通年	ポピュラー音楽概論	4				通年	卒業ライブ	1		
		半期	リズムトレーニング	1											
	選必	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	各2										2 以上	
		通年	インストゥルメントⅡ①	最低2											
		通年	ポピュラーヴォーカルⅡ①												
		通年	器楽Ⅱ①	2											
		通年	コードプロGRESSION(ベーシック)	4	通年	コードプロGRESSION(アドバンス)	4								
	選択				集中	スタジオレコーディング①	1	集中	スタジオレコーディング②	1				4	
					集中	ライブ実習Ⅰ①	1	集中	ライブ実習Ⅰ②	1				4	
					集中	ライブ実習Ⅱ①	1	集中	ライブ実習Ⅱ②	1				以上	
		半期	イヤートレーニング	2	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	通年	器楽Ⅱ③	2	通年	器楽Ⅱ④	2	制限なし	
		通年	ダンス	2	通年	インストゥルメントⅡ②	2	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2		
通年	ピアノⅡ①	2	通年	ポピュラーヴォーカルⅡ②	2	前期	ミュージックビジネスと社会	2	後期	ライブビジネスと社会	2				
			通年	器楽Ⅱ②	2				後期	芸術関係法規	2				
			通年	ピアノⅡ②	2										
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1 2 以上		
		通年	基礎ゼミ	2											
	前期	演奏とからだⅠ	2	後期	演奏とからだⅡ	2									
	前期	生活と経済	2												
半期	情報機器演習(基礎)	2													
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4								
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: 外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ポピュラー音楽コース 養成する人材像:シンガーソングライター

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ポピュラー実技Ⅰ①	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ②	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ③	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ④	6	54	1 2 4 単位以上
		通年	ポピュラー演奏法①	2	通年	ポピュラー演奏法②	2	通年	ポピュラー演奏法③	2	通年	ポピュラー演奏法④	2		
		通年	ポピュラーアンサンブル①	2	通年	ポピュラーアンサンブル②	2	通年	ポピュラーアンサンブル③	4	通年	ポピュラーアンサンブル④	4		
		通年	サウンドクリエイト①	4	通年	ポピュラー音楽概論	4				通年	卒業ライブ	1		
		半期	リズムトレーニング	1											
	選必	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2										2	
		通年	インストゥルメンツⅡ①	2										以上	
		通年	ポピュラーヴォーカルⅡ①	2										4以上	
		通年	コードプロGRESSION(ベーシック)	4	通年	コードプロGRESSION(アドバンス)	4								
	選択				集中	スタジオレコーディング①	1	集中	スタジオレコーディング②	1				4	
					集中	ライブ実習Ⅰ①	1	集中	ライブ実習Ⅰ②	1				以上	
					集中	ライブ実習Ⅱ①	1	集中	ライブ実習Ⅱ②	1				以上	
		通年	ソングライティング演習①	2	通年	ソングライティング演習②	2	通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4	制限なし	
		半期	イヤートレーニング	2	通年	サウンドクリエイト②	4	通年	ハーモニー演習③	2	後期	ライブビジネスと社会	2		
		前期	ジャズの歴史と作品	2	後期	舞台スタッフ論②	2	前期	ミュージックビジネスと社会	2	後期	芸術関係法規	2		
		前期	舞台スタッフ論①	2	通年	ハーモニー演習②	2								
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	ポピュラーヴォーカルⅡ②	2								
通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1										
通年	基礎ゼミ	2													
前期	演奏とからだⅠ	2	後期	演奏とからだⅡ	2										
教養科目	前期	生活と経済	2										1 2 以上		
	半期	情報機器演習(基礎)	2												
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2 最低4						8 以上		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: 外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

ポピュラー音楽コース 養成する人材像:ポピュラー音楽のインストラクター

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	ポピュラー実技Ⅰ①	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ②	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ③	6	通年	ポピュラー実技Ⅰ④	6	54	1 2 4 単位以上
		通年	ポピュラー演奏法①	2	通年	ポピュラー演奏法②	2	通年	ポピュラー演奏法③	2	通年	ポピュラー演奏法④	2		
		通年	ポピュラーアンサンブル①	2	通年	ポピュラーアンサンブル②	2	通年	ポピュラーアンサンブル③	4	通年	ポピュラーアンサンブル④	4		
		通年	サウンドクリエイト①	4	通年	ポピュラー音楽概論	4				通年	卒業ライブ	1		
		半期	リズムトレーニング	1											
	選必	通年	ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2										2	
		通年	インストゥルメントⅡ①	2										以上	
		通年	ポピュラーヴォーカルⅡ①	2										4以上	
		通年	コードプロGRESSION(ベーシック)	4	通年	コードプロGRESSION(アドバンス)	4							4以上	
	選択				集中	スタジオレコーディング①	1	集中	スタジオレコーディング②	1				4	
					集中	ライブ実習Ⅰ①	1	集中	ライブ実習Ⅰ②	1				以上	
					集中	ライブ実習Ⅱ①	1	集中	ライブ実習Ⅱ②	1				以上	
		通年	ソングライティング演習①	2	通年	ソングライティング演習②	2	通年	ポピュラー作曲・編曲法①	4	通年	ポピュラー作曲・編曲法②	4	制限なし	
		半期	イヤートレーニング	2	通年	サウンドクリエイト②	4	通年	ハーモニー演習③	2	通年	ピアノⅡ④	2		
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1						1		
		通年	基礎ゼミ	2									2		
	選択	前期	演奏とからだⅠ	2	後期	演奏とからだⅡ	2						以上		
外国語科目	選必	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2	通年	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	各2						8		
		通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4	通年	初級英語Ⅰ～Ⅴ	最低4						以上		
		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	中級英語Ⅰ～Ⅴ									
		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ		通年	上級英語Ⅰ～Ⅴ									
	選択	通年	基礎イタリア語	4	通年	基礎ドイツ語	4	通年	基礎フランス語	4				制限なし	

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: 外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

声楽コース 養成する人材像: 声楽家、オペラ歌手

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得単位	卒業要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	声楽Ⅰ①	6	通年	声楽Ⅰ②	6	通年	声楽Ⅰ③	6	通年	声楽Ⅰ④	6	6 8	1 2 4 単位以上
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2	通年	オペラ演習Ⅰ③	4	通年	オペラ演習Ⅰ④	2		
		通年	合唱①	2	通年	合唱②	2	通年	合唱③	2	通年	合唱④	2		
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	オペラ演習Ⅰ②	2	通年	海外研修Ⅰ	4	通年	オペラ公演実習	4		
		通年	オペラ演習Ⅰ①	2	通年	オペラの歴史と作品	4								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
		通年	歌うためのイタリア語	2											
		通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	2											
	選必				前期	声楽アンサンブル基礎	1							3	以上
		通年	総合ソルフェージュ②	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	2								
	選択	通年	総合ソルフェージュ①	2	前期	ドイツ歌曲①	1	通年	ピアノⅡ③	2	通年	オペラ演習Ⅱ	2	制限なし	
		通年	合唱指導法①	2	通年	総合ソルフェージュ②	2	後期	ドイツ歌曲②	1	前期	フランス歌曲②	1		
					通年	ハーモニー演習②	2	後期	フランス歌曲①	1	前期	日本歌曲②	1		
					後期	ステージマネージャー演習①	1	後期	日本歌曲①	1					
								通年	聴音・視唱ソルフェージュ③	2					
								通年	作曲・編曲法Ⅰ	2					
								通年	指揮法Ⅰ	2					
教養科目	必修	通年	芸術特別研究Ⅰ	1	通年	芸術特別研究Ⅱ	1							1 2 以上	
		通年	基礎ゼミ	2											
	選択	前期	演奏とからだⅠ	2	通年	音楽活動研究②	1	通年	音楽活動研究③	1	通年	音楽活動研究④	1		
		後期	演奏とからだⅡ	2											
		通年	音楽活動研究①	1											
外国語科目	必修	通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4							8 以上	
	選択							通年	中級イタリア語Ⅰ	2	通年	上級イタリア語	2		
								通年	中級イタリア語Ⅱ	2					

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

声楽コース 養成する人材像: 声楽・合唱団等の指導者

科目区分	年次	1年次			2年次			3年次			4年次			取得 単位	卒業 要件
		期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位	期間	科目名	単位		
専門科目	必修	通年	声楽Ⅰ①	6	通年	声楽Ⅰ②	6	通年	声楽Ⅰ③	6	通年	声楽Ⅰ④	6	6 8	1 2 4 単位以上
		通年	ピアノⅡ①	2	通年	ピアノⅡ②	2	通年	オペラ演習Ⅰ③	4	通年	オペラ演習Ⅰ④	2		
		通年	合唱①	2	通年	合唱②	2	通年	合唱③	2	通年	合唱④	2		
		通年	ハーモニー演習①	2	通年	オペラ演習Ⅰ②	2	通年	海外研修Ⅰ	4	通年	オペラ公演実習	4		
		通年	オペラ演習Ⅰ①	2	通年	オペラの歴史と作品	4								
		通年	西洋音楽史Ⅰ	4											
		通年	歌うためのイタリア語	2											
	通年	聴音・視唱ソルフェージュ①	2												
	選必				前期	声楽アンサンブル基礎	1							3 以上	
	選必				通年	聴音・視唱ソルフェージュ②	2								
教養科目	必修	通年	総合ソルフェージュ①	2	前期	ドイツ歌曲①	1	通年	ピアノⅡ③	2	通年	ピアノⅡ④	2	制限なし	
		通年	合唱指導法①	2	通年	総合ソルフェージュ②	2	後期	フランス歌曲①	1					
	選択	通年	合唱指導法②	2	通年	合唱指導法②	2	後期	日本歌曲①	1					
		通年	ハーモニー演習②	2	通年	ハーモニー演習②	2	通年	聴音・視唱ソルフェージュ③	2					
		後期	ステージマネージャー演習①	1	通年	ステージマネージャー演習①	1	通年	作曲・編曲法Ⅰ	2					
					通年			通年	指揮法Ⅰ	2					
					通年			通年	伴奏法Ⅱ	2					
					通年			通年	ポリフォニー演習	2					
					後期			後期	ステージマネージャー演習②	1					
外国語科目	必修	通年	基礎イタリア語	4	通年	初級イタリア語	4						8 以上		
	選択						4	通年	中級イタリア語Ⅰ	2					
							通年	中級イタリア語Ⅱ	2						

注: 年間履修単位数の上限は48単位

注: ソルフェージュおよび外国語の履修方法については履修要綱を参照のこと

南校舎の形態別教室等の面積、室数、用途

建物区分		室名	面積 (㎡)	形態	講義室・演習室	練習室・実習室	情報処理学習施設	
南校舎	地階	B012 (実習用メディアルーム)	61.56	情報処理学習施設			○	
		B013 (講義用メディアルーム)	61.56	情報処理学習施設			○	
		地階計 (㎡)	123.12		0.00	0.00	123.12	
	1階	C101 (第1汎用スタジオ)	377.66	実習室		○		
		C102 (オーケストラスタジオ)	160.79	実習室		○		
		C103 (オーケストラスタジオ)	320.84	実習室		○		
		C111 (アンサンブルスタジオ)	88.30	演習室	○			
		C112 (アンサンブルスタジオ)	57.87	演習室	○			
		C113 (アンサンブルスタジオ)	62.86	演習室	○			
		1階計 (㎡)	1,068.32		209.03	859.29	0.00	
		2階	A211 (教室)	101.22	講義室	○		
			A212 (教室)	112.22	講義室	○		
	A213 (教室)		67.79	講義室	○			
	A214 (教室)		142.15	講義室	○			
	A215 (教室)		89.02	講義室	○			
	A216 (教室)		58.13	講義室	○			
	A217 (教室)		58.53	講義室	○			
	A218 (教室)		58.94	講義室	○			
	A219 (教室)		61.05	講義室	○			
	B251 (レッスン室)		24.63	演習室	○			
	B252 (レッスン室)		11.73	演習室	○			
	B253 (レッスン室)		11.91	演習室	○			
	B254 (レッスン室)		47.30	演習室	○			
	B255 (レッスン室)		23.65	演習室	○			
	B257 (レッスン室)		23.65	演習室	○			
	B258 (レッスン室)		23.65	演習室	○			
	B259 (レッスン室)		23.65	演習室	○			
	B260 (レッスン室)		23.65	演習室	○			
	B262 (レッスン室)		24.54	演習室	○			
	B263 (レッスン室)		12.90	演習室	○			
	B264 (レッスン室)		13.10	演習室	○			
	B266 (レッスン室)		23.65	演習室	○			
	B271 (レッスン室)		23.65	演習室	○			
	B275 (レッスン室)		24.20	演習室	○			
	C211 (ミュージックラボラトリー)		50.54	講義室	○			
	C212 (ミュージックラボラトリー)		53.07	講義室	○			
	C213 (アンサンブル室)		53.07	演習室	○			
	C214 (アンサンブル室)		47.36	演習室	○			
	C215 (アンサンブル室)		50.54	演習室	○			
	C216 (アンサンブル室)		50.54	演習室	○			
	C217 (アンサンブル室)		50.54	演習室	○			
	C218 (アンサンブル室)		57.13	演習室	○			
	C219 (アンサンブル室)		57.19	演習室	○			
	2階計 (㎡)	1,554.89		1,554.89	0.00	0.00		
	3階	A311 (教室)	143.46	講義室	○			
		A312 (教室)	69.49	講義室	○			
		A313 (教室)	70.47	講義室	○			
A314 (教室)		69.49	講義室	○				
A315 (教室)		73.96	講義室	○				
A316 (教室)		88.73	講義室	○				
A317 (教室)		58.94	講義室	○				
A318 (教室)		58.13	講義室	○				
A319 (教室)		58.94	講義室	○				
A320 (教室)		61.05	講義室	○				
B311 (教室)		95.54	講義室	○				
B312 (ミュージックラボラトリー)		49.67	講義室	○				
B313 (ミュージックラボラトリー)		47.30	講義室	○				
B314 (教室)		47.30	講義室	○				
B315 (教室)		47.30	講義室	○				
BE301 (練習室)		6.73	実習室		○			
BE302 (練習室)		12.74	実習室		○			
BE303 (練習室)		12.74	実習室		○			
BE304 (練習室)		7.33	実習室		○			
BE305 (練習室)		7.33	実習室		○			
BE306 (練習室)		12.74	実習室		○			
BE307 (練習室)		12.74	実習室		○			
BE308 (練習室)		7.33	実習室		○			
BE309 (練習室)		7.33	実習室		○			
BE310 (練習室)		12.74	実習室		○			
BE311 (練習室)		12.74	実習室		○			
BE312 (練習室)		7.33	実習室		○			
BE313 (練習室)		7.33	実習室		○			
BE316 (練習室)		7.33	実習室		○			
C311 (実習室)		29.17	実習室		○			
C311 (観察室)		16.43	実習室		○			

南校舎の形態別教室等の面積、室数、用途

建物区分	室名	面積 (㎡)	形態	講義室・演習室	練習室・実習室	情報処理学習施設
	C313 (実習室)	55.51	実習室		○	
	C313 (観察室)	19.92	実習室		○	
	C314 (アンサンブル室)	50.54	演習室	○		
	C315 (アンサンブル室)	53.07	演習室	○		
	C316 (アンサンブル室)	44.14	演習室	○		
	C317 (アンサンブル室)	45.97	演習室	○		
	C355 (レッスン室)	25.27	演習室	○		
	C358 (レッスン室)	29.55	演習室	○		
	C361 (レッスン室)	22.07	演習室	○		
	C362 (レッスン室)	22.07	演習室	○		
	C301 (第2汎用スタジオ)	149.68	実習室		○	
	C301 (前室①)	7.25	実習室		○	
	C301 (前室②)	5.15	実習室		○	
	3階計 (㎡)	1,750.03		1,332.44	417.59	0.00
4階	B451 (レッスン室)	23.99	演習室	○		
	B454 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B455 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B456 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B457 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B458 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B459 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B460 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B461 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B463 (レッスン室)	26.01	演習室	○		
	B469 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	C401 (録音スタジオ)	80.43	実習室		○	
	C401 (前室)	15.65	実習室		○	
	C401 (ブース①)	9.63	実習室		○	
	C401 (ブース②)	9.39	実習室		○	
	C401 (ブース③)	15.67	実習室		○	
	C402 (調整スタジオ)	48.36	実習室		○	
	C411 (サウンド編集室)	109.39	演習室	○		
	C412 (アンサンブル室)	42.55	演習室	○		
	C413 (サウンド演習室)	27.55	演習室	○		
	C414 (サウンド演習室)	27.55	演習室	○		
	C415 (アンサンブルレッスン室)	35.30	演習室	○		
	C416 (アンサンブル室)	41.08	演習室	○		
	C417 (アンサンブル室)	53.12	演習室	○		
	C418 (サウンド編集室)	57.41	実習室		○	
	C419 (実習室)	27.73	実習室		○	
	C420 (実習室)	28.60	実習室		○	
	C452 (レッスン室)	22.80	演習室	○		
	C453 (レッスン室)	22.80	演習室	○		
	C454 (レッスン室)	25.08	演習室	○		
	C455 (レッスン室)	17.65	演習室	○		
	C456 (レッスン室)	17.65	演習室	○		
	C457 (レッスン室)	17.24	演習室	○		
	C459 (レッスン室)	19.20	演習室	○		
	C460 (レッスン室)	22.96	演習室	○		
	CE401 (練習室)	8.97	実習室		○	
	CE402 (練習室)	8.97	実習室		○	
	CE403 (練習室)	8.97	実習室		○	
	CE404 (練習室)	8.97	実習室		○	
	CE405 (練習室)	10.02	実習室		○	
	CE406 (練習室)	10.02	実習室		○	
	CE407 (練習室)	10.02	実習室		○	
	CE408 (練習室)	10.02	実習室		○	
	CE409 (練習室)	9.81	実習室		○	
	CE410 (練習室)	9.81	実習室		○	
	CE411 (練習室)	9.63	実習室		○	
	C450 (レッスン室)	22.56	演習室	○		
	A481 (ゼミ室)	10.41	演習室	○		
	A482 (ゼミ室)	9.89	演習室	○		
	A483 (ゼミ室)	9.91	演習室	○		
	A484 (ゼミ室)	14.02	演習室	○		
	A411 (教室)	143.47	講義室	○		
	4階計 (㎡)	1,373.10		975.02	398.08	0.00

南校舎の形態別教室等の面積、室数、用途

建物区分	室名	面積 (㎡)	形態	講義室・演習室	練習室・実習室	情報処理学習施設
5階	A501 (ホール)	355.78	実習室		○	
	C511 (階段教室)	261.10	講義室	○		
	B551 (レッスン室)	24.30	演習室	○		
	B552 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B553 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B554 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B555 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B556 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B557 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B558 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B565 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	CE501 (練習室)	8.00	実習室		○	
	CE502 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE503 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE504 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE505 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE506 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE507 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE508 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE509 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE510 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE511 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE512 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE513 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE514 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE515 (練習室)	6.96	実習室		○	
	CE516 (練習室)	6.81	実習室		○	
	CE517 (練習室)	5.79	実習室		○	
	CE518 (練習室)	14.54	実習室		○	
	CE519 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE520 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE521 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE522 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE523 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE524 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE525 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE526 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE527 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE528 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE529 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE530 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE531 (練習室)	7.78	実習室		○	
	CE532 (練習室)	8.82	実習室		○	
	CE533 (練習室)	12.19	実習室		○	
	CE534 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE535 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE536 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE537 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE538 (練習室)	7.46	実習室		○	
	CE539 (練習室)	8.25	実習室		○	
	CE540 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE541 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE542 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE543 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE544 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE545 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE546 (練習室)	7.86	実習室		○	
	CE547 (練習室)	8.90	実習室		○	
	CE548 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE549 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE550 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE551 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE552 (練習室)	6.16	実習室		○	
	CE553 (練習室)	9.58	実習室		○	
	CE554 (練習室)	12.95	実習室		○	
CE555 (練習室)	5.94	実習室		○		
CE556 (練習室)	5.83	実習室		○		
CE557 (練習室)	5.13	実習室		○		
CE558 (練習室)	5.13	実習室		○		
CE559 (練習室)	5.13	実習室		○		
CE560 (練習室)	5.36	実習室		○		
CE561 (練習室)	5.36	実習室		○		
CE562 (練習室)	5.36	実習室		○		
CE563 (練習室)	6.79	実習室		○		
CE564 (練習室)	6.55	実習室		○		
CE565 (練習室)	5.44	実習室		○		

南校舎の形態別教室等の面積、室数、用途

建物区分	室名	面積 (㎡)	形態	講義室・演習室	練習室・実習室	情報処理学習施設
	CE566 (練習室)	5.44	実習室		○	
	CE567 (練習室)	5.44	実習室		○	
	CE568 (練習室)	5.44	実習室		○	
	CE569 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE570 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE571 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE572 (練習室)	5.36	実習室		○	
	CE573 (練習室)	6.41	実習室		○	
	CE574 (練習室)	6.41	実習室		○	
	CE575 (練習室)	6.41	実習室		○	
	CE576 (練習室)	6.41	実習室		○	
	CE577 (練習室)	6.48	実習室		○	
	CE578 (練習室)	5.36	実習室		○	
	5階計 (㎡)	1,383.57		474.60	908.97	0.00
6階	B651 (レッスン室)	24.30	演習室	○		
	B652 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B653 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B654 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B655 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B656 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B657 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B658 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B659 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B660 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B661 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B662 (レッスン室)	24.54	演習室	○		
	B663 (レッスン室)	26.01	演習室	○		
	B664 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B665 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B666 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B667 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B668 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B669 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B670 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B671 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B672 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B673 (レッスン室)	23.65	演習室	○		
	B674 (レッスン室)	26.01	演習室	○		
	C601 (スタジオ1)	222.64	実習室		○	
	C602 (スタジオ2)	222.41	実習室		○	
	C501 (音響照明室)	60.44	実習室		○	
	ドラム練習室	50.89	実習室		○	
	6階計 (㎡)	1,130.24		573.86	556.38	0.00
地階～6階計		8,383.27		5,119.84	3,140.31	123.12
室数合計				125	127	2

※大学院専用の教室等の面積、室数は除く

【学術雑誌リスト】

	雑 誌 名 (和 書)
1	記号学研究
2	月刊文化財
3	美学
4	音楽学
5	東洋音楽研究
6	音楽教育学
7	日本音楽療法学会誌
8	滋賀県音楽療法研究学会誌
9	近畿音楽療法学会誌
10	音楽心理学音楽療法研究年報
11	老年精神医学雑誌
12	日本芸術療法学会誌
13	情報の科学と技術
14	みんなの図書館
合 計	14種

	雑 誌 名 (洋 書)
1	Acta musicologica
2	Archiv für Musikwissenschaft
3	L'avant scène opéra
4	Journal of Music Theory
5	Journal of Music Therapy
6	Journal of Singing
7	Journal of the American Musicological Society
8	Music and Letters
9	The Musical Times
10	Musik und Kirche
11	Die Musikforschung
12	Notes (Music Library Association Notes)
13	Neue Zeitschrift für Musik
14	Perspectives of New Music
15	Music Therapy Perspectives
16	British Journal of Music Therapy
17	International Journal of Cultural Policy
18	Musicologia Austriaca
19	Schweizer Jahrbuch für Musikwissenschaft
20	Hamburger Jahrbuch für Musikwissenschaft
21	Dance Research
22	Journal of Research in Music Education
23	New Theatre Quarterly
24	Theatre Journal
25	L'Opera
合 計	25種

【データベース、電子ジャーナルリスト】

データベース名	
1	Naxos Music Library
2	Naxos Video Library
3	Dance in Video Series, Vol. I, II
4	Opera in Video
5	Classical Music in Video
6	Classical Scores Library I
7	JSTOR: Music Collection
8	Oxford Music Online
9	RILM Abstracts of Music Literature
10	RISM Series A/II: Music Manuscripts after 1600
11	PQDT: ProQuest Dissertations and theses full text Part A
12	CiNii
13	聞蔵II ビジュアル
合計	13種

電子ジャーナル名	
1	Early music
合計	1種

【編入学生の既修得単位の認定例、編入学後の履修モデル(声楽コース)】

編入学生の既修得単位の認定例

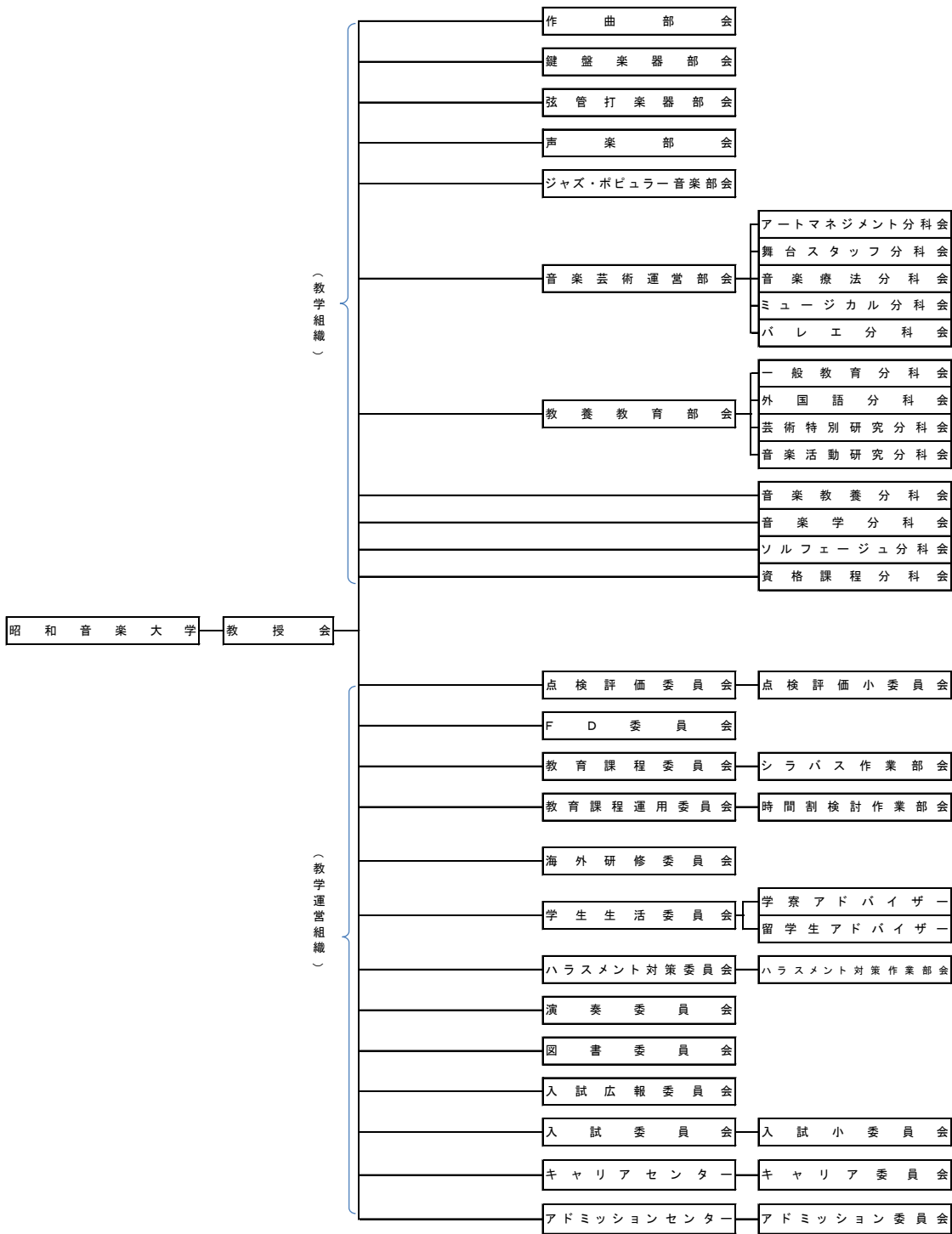
A短期大学 音楽科		昭和音楽大学 音楽芸術表現学科 声楽コース				
科目名	単位	区分	必選	科目名	単位	
声楽	8	専門科目	必修	声楽Ⅰ①	6	
重唱	2			声楽Ⅰ②	6	
卒業演奏	2			ピアノⅡ①	2	
ピアノ	4			ピアノⅡ②	2	
合唱	4			合唱①	2	
音楽理論(和声学)	2			合唱②	2	
ソルフェージュ	4			ハーモニー演習①	2	
鍵盤演習	2			選択	聴音・視唱ソルフェージュ①	2
音楽理論	2				総合ソルフェージュ①	2
音楽療法概論	2				鍵盤演奏表現Ⅰ	2
初見・伴奏法	2		音楽基礎演習		2	
合奏	2		音楽療法概説		2	
指揮法	2		伴奏法Ⅱ		2	
ポリフォニーの演奏法	2		合奏Ⅱ		2	
英語Ⅰ	2		指揮法Ⅰ		2	
英語Ⅱ	2		ポリフォニー演習	2		
国語表現	2		外国語	選択	基礎英語Ⅰ	2
音楽キャリア講座	1				基礎英語Ⅱ	2
哲学	1		教養科目	必修	基礎ゼミ	2
倫理学	2				選択	哲学
日本国憲法	2	日本国憲法		2		
情報機器操作	2	情報機器演習(基礎)		2		
体育実技	2	体育実技		1		
既修得単位	56			認定単位数合計(a)	53	

編入学後の履修モデル

区分	必選	3年		4年	
		科目名	単位	科目名	単位
専門科目	必修	声楽Ⅰ③	6	声楽Ⅰ④	6
		オペラ演習Ⅰ①	2	オペラ演習Ⅰ③	4
		オペラ演習Ⅰ②	2	オペラ演習Ⅰ④	2
		合唱③	2	合唱④	2
		西洋音楽史Ⅰ	4	オペラの歴史と作品	4
		歌うためのイタリア語	2	オペラ公演実習	4
		海外研修Ⅰ	4		
		声楽アンサンブル基礎	1		
	選択	ピアノⅡ③	2	ピアノⅡ④	2
		日本歌曲①	1	オペラ演習Ⅱ	2
作曲・編曲法Ⅰ		2	日本歌曲②	1	
外国語	必修	基礎イタリア語	4	初級イタリア語	4
教養科目	必修	芸術特別研究Ⅰ	1	芸術特別研究Ⅱ	1
		演奏とからだⅠ	2	西洋文化史Ⅰ	2
	選択	演奏とからだⅡ	2		
		合計(b)	37	合計(c)	34

(a)(b)(c)合計
 124単位
 専門科目
 95単位
 外国語
 12単位
 教養科目
 17単位

【教学組織・教学運営組織】



【キャリア科目一覧】

科目名	概要	配当年次	単位数
基礎ゼミ	初年次の導入教育として「大学における学び」のためのスタートアップを行う。具体的には(1)学びの環境を知る(建学の精神、カリキュラム、大学内の施設、設備等)、(2)大学で学ぶこととその意味を考える(大学での学ぶ内容とその意味、本学の特徴的な科目等)、(3)主体的に学ぶために必要な基本的なスキルを修得する(図書館の活用、情報モラルとリスクマネジメント等)、(4)キャリアデザインを描く(学修ポートフォリオ)、(5)コミュニケーション・スキルを学ぶ(グループワークによる情報の収集・整理、プレゼンテーション、ディスカッション)などである。	1通	必修 2
キャリアデザイン	講義やディスカッションを通じ、音楽業界の現状や人材ニーズを把握し、将来の職業イメージを具体化する。学生が、幅広い視点で音楽を捉える力を育み、自己の個性や才能を認識し、大学での学びを社会で活かすことを目的とする。	2通	選択 2
芸術特別研究Ⅰ	優れた音楽・芸術表現を鑑賞し、その内容をレポート作成及びプレゼンテーションすることで表現力を養うとともに、感性を磨き視野を広げることで、音楽・芸術についての理解を深め、音楽表現を豊かにする。	1通	選択 1
芸術特別研究Ⅱ	優れた音楽・芸術表現を鑑賞し、その内容をレポート作成及びプレゼンテーションする。芸術特別研究Ⅰでの学修を基に、表現力を養うとともに、感性を磨き視野を広げることで、音楽・芸術についての理解を深め、音楽表現を豊かにする。	1通	選択 1
音楽活動研究①	社会における音楽の役割、対象や目的に沿った演奏会の創り方について専門的に学び、実際の演奏活動の見学を通じて、音楽のもつ力を体感する。	1通	選択 1
音楽活動研究②	音楽活動研究①を基礎としながら、専門的な技術を学ぶと共に、実際の演奏活動の映像を検証し、ディスカッションを行う。自分にとって音楽とは何かについて考察を深める。	2通	選択 1
音楽活動研究③	音楽活動研究①②で修得したスキルと知識を活かし、演奏活動、楽器指導、演奏会の企画運営を体験し、「礼・節・技」の備わった音楽人として成長することを目指す。	3通	選択 1
音楽活動研究④	音楽活動研究①～③で修得したスキル、知識、経験を活かし、主体的に演奏活動、楽器指導、演奏会の企画運営を行うことにより、「礼・節・技」の備わった音楽人として成長することを目指す。	4通	選択 1
ミュージックビジネスと社会	レコード会社、プロモーター、アーティストマネジメントなど、音楽関連産業の機能と役割、音楽ビジネスのあり方を考察し、将来のビジョンを展望する。	1前	選択 2
ライブビジネスと社会	近年、ミュージックビジネスの様相が大きく変容している。とりわけ、ライブビジネスが、音楽事業全分野の中で著しい成長を遂げており、本講義ではこの情勢の変化に伴って、地域コミュニティなど社会のニーズにいかに対応できるかに主眼を置く内容となる。ここではライブビジネスに関わるさまざまなテーマをとりあげ、学生は、講義を一方向的に聞くだけでなく、各テーマについての意見を交換し、共に考え、そして見解を発表することによって新たなコミュニケーション能力の涵養を目指す。	1後	選択 2
フィールドインターンシップ①	音楽系企業や芸術文化組織等で就業体験を行い、実践的な力をつけると同時に、プレゼンテーション能力、課題解決力の獲得を目指す。	3通	選択 2
フィールドインターンシップ②	フィールドインターンシップ①を修得した者を対象に、音楽系企業や芸術文化組織等で本人の将来ビジョンに沿った就業体験を行い、実践的な力をつけると同時に、プレゼンテーション能力、課題解決力の獲得し、将来のキャリアに活かす。	4通	選択 2

昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部キャリアセンター規程

(目的)

第1条 昭和音楽大学および昭和音楽大学短期大学部（以下「本学」という。）は、昭和音楽大学学則第1条および昭和音楽大学短期大学部学則第1条に則り、音楽大学としての専門性を活かしたキャリア教育の推進と学生および卒業生（以下「学生等」という。）の進路支援を行うことを目的として、本学教授会のもとにキャリアセンター（以下「センター」という。）を置く。

(センターの業務)

第2条 センターは、第1条の目的を達成するため次の業務を行う。

- (1) キャリア教育（インターンシップを含む。以下同じ。）および進路支援体制の整備に関すること。
- (2) キャリア教育および進路支援に係る広報に関すること。
- (3) キャリア教育の企画・実施に関すること。
- (4) キャリア教育の調査・分析に関すること。
- (5) キャリア教育に係る部会・分科会・委員会との連絡調整および連携に関すること。
- (6) 進路支援に係る事業の企画・実施に関すること。
- (7) 進路支援の調査・分析に関すること
- (8) 進路支援に係る学内外の関係機関との連絡調整および連携に関すること。
- (9) 求人企業開拓の企画・実施に関すること。
- (10) 求人情報の受付、提供および管理に関すること。
- (11) 学生等の進路相談に関すること。
- (12) 学生等の情報収集・支援に関すること。
- (13) その他キャリア教育および進路支援に必要なこと。

(構成)

第3条 センターは、次の各号に掲げる者により構成する。

- (1) センター長 1名
- (2) 副センター長 1名（必要に応じて置くことができる）
- (3) キャリア委員

(センター長)

第4条 センター長は、本学の専任教員のうちから学長が選任する。

- 2 センター長は、センターを代表し業務を統括する。
- 3 センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(副センター長)

- 第5条 センターには、必要に応じて副センター長を置くことができる。
- 2 副センター長の選任は、前条第1項に準ずる。
 - 3 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 4 副センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(キャリア委員)

- 第6条 センターには、キャリア委員を置く。
- 2 キャリア委員は、本学の専任教員および事務職員のうちから学長が決定する。
 - 3 キャリア委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(キャリア委員会)

- 第7条 センターにキャリア委員会（以下、委員会という）を置き、次の事項を審議する。
- (1) センターの基本方針の策定
 - (2) カリキュラムの企画・実施および事業計画並びにセンターの運営に関する事項
 - (3) センターの予算および決算に関する事項
 - (4) 部会・分科会との連絡調整
 - (5) 事務局との連絡調整
 - (6) その他センターに関する事項
- 2 委員会の構成は次のとおりとする。
- (1) センター長
 - (2) 副センター長
 - (3) キャリア委員
- 3 委員会は、センター長が招集し、センター長または副センター長が議長となる。
- 4 委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 5 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務担当)

- 第8条 センターに関する事務は、企画広報部キャリア支援室が行う。

(規程の改廃)

- 第9条 本規程の改廃は、運営委員会の審議を経て学長が行う。

附 則 この規程は平成27年4月1日から施行する。

この規定の施行により、昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部キャリア支援センター規定は廃止する。